

神田外語大学

グローバル・リベラルアーツ学部年報

2021（令和3）年度

令和4年9月

「グローバル・リベラルアーツ学部年報 2021」刊行にあたって

「グローバル・リベラルアーツ学部年報」(以下「年報」)は、2021年4月に設置されたグローバル・リベラルアーツ学部(以下「本学部」)について、その設置構想から学年進行(4年間)期間における教育活動、研究活動、国際交流活動、施設・設備及び管理運営の状況等の記録を取りまとめるものです。

この年報では、本学部の文部科学省への届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載の内容に基づき、その進捗(自己点検・評価の観点を含む)を主な内容として記録して行きます。

2021年度においては、以下のような取り組みを中心的行いました。

4月1日に入学式を挙行し、59名の1期生を受け入れるとともに、GLA学部の学習施設「GLA Commons」を開設しました。また4月10日に宿泊研修(Freshman Orientation Camp(於:ブリティッシュヒルズ))を行ない、同月19日から前期の授業を開始しました。

コロナウイルス感染症の影響から6月に予定していた海外スタディ・ツアーの実施が困難となりましたが、ブリティッシュヒルズでの宿泊型オンラインプログラム「海外スタディ・ツアー2.0」(本来1地域を選択して学修するプログラムから4地域を学べるプログラム)へ切り替え、教育効果の維持・向上に努めました。

コロナウイルス感染症により「海外スタディ・ツアー2.0」(オンラインプログラム)へ切り替えましたが、2022年2月の時点で唯一入国(海外渡航)が可能であったリトアニアで、一週間の現地研修を遂行しました。研修では「海外スタディ・ツアー2.0」の学びをさらに深めるための関連施設訪問(杉原千畝記念館、第9要塞博物館等)やヴィータウタス・マグヌス大学の学生との交流を図りました。

入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに掲げる能力を確認するため、総合型選抜、学校推薦型選抜、海外経験特別選抜、一般選抜、共通テストプラス入試及び共通テスト利用入試の6つの方式で入学者選抜を実施し、81名(令和3年度は59名)の入学者を得ました。

以上のような取り組みを大学改革室が取りまとめ、ここに刊行する運びとなりました。ご協力いただいた皆様のお陰であること、心から御礼申し上げます。

2022年9月

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部
学部長 ロバート デシルバ

目次

I. 理念・目的	1
II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組	3
1. 入学者選抜の方法等について	
2. 入学者選抜の状況について	
III. 教育課程編成の取組	7
1. 教育課程の編成について	
2. 教員の組織体制について	
IV. 学生支援の取組	25
1. 学習支援の取組について	
2. キャリア支援の取組について	
V. 管理運営の取組	33
1. 情報公表の取組について	
2. 教育内容等の改善を図るための取組について	
3. 管理・運営体制について	
4. 施設・設備について	

I. 理念・目的

2021年4月に設置された、グローバル・リベラルアーツ学部設置の趣旨・必要性は、『文部科学省に設置届出の際に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」』（以下「設置の趣旨等を記載した書類」という。）に次のとおり記載している。

2013年5月の教育再生実行会議の提言「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」においては、「社会の多様な場面でグローバル化が進む中、大学は、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成すること」が求められた。

また、2019年5月の同会議の提言「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言）」においても、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急激に進展し、Society5.0の基盤となるAI、IoTなどの技術の開発に関する国際的な競争が激化する中で、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することが求められている。

一方、今、地球上では、依然として紛争は収束せず、安全保障や通商摩擦、宗教対立、移民・難民問題、地球温暖化や新型感染症をはじめとする様々な解決困難な課題が噴出ししている。他方、日本国内でも、アジア諸国を中心とするインバウンドの爆発的増大など、一昔前の欧米が基軸であった対外関係から考えられなかったようなグローバルな状況が展開している。

このような現代社会では、多様な価値観や考え方を相互に理解し尊重しながら、共生を図って行くことなしには、平和と安定、発展はあり得ないと考える。わずかなコミュニケーション・ギャップにより、意図しない、人類にとって悲惨な結果が起きることが否定できない。

直近の例として取り上げたいのが、今回、世界的な規模で発生した新型コロナウイルス感染症への対応である。当初、各国は国境を閉ざし人の出入りを制限するというグローバル化の価値観に逆行する対策でこの危機を乗り越えようとした。しかし、試行錯誤や科学的知見の積み重ねの結果、結局、世界に広がった感染症を収束に向かわせるためには、もはや一国だけでは対応では不十分である。仮に、特定の国だけで収束したとしても、他の国や地域で蔓延していれば、現代世界は成り立っていない。つまり、国や地域、体制などの違いを超えグローバルな視座に立って協力がすることが重要であることを人類は再認識し、現在、世界の潮流は再びそのような方向に向かおうとしている。

人類の想像を超えてめまぐるしく変化する現代世界において、本学は、建学の理念に深く想いを寄せ、高い英語力と幅広い教養を身につけ、海外での多様な活動を体験することで、グローバルな視座に立って発想し、世界と日本の困難な課題に立ち向かい、その平和の希求と繁栄の維持に主体的に貢献できる人材、言わば、「現代社会が求める真のグローバル人材」を育てることが使命と考え、この30年間で培ってきた教育をさらに深化させるとともに、新たな取組にチャレンジするための「グローバル・リベラルアーツ学部」（以下「本学部」という。）を2021年4月に開設することとした。

以上のような設置の趣旨・必要性に基づく本学部の教育研究の目的は、学則第2条第3項に次のように定めている。

グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科は、広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

2021年度の取り組み

2021年4月1日(金)	・令和3年度神田外語大学入学式を挙行(於:幕張メッセ)し、59名の学生を受け入れ ・「GLA Commons」(GLA学部の学習施設)開設
4月10日(日)	Freshman Orientation Camp(11日まで)
4月19日(月)	前期授業開始
6月27日(日)	海外スタディ・ツアー2.0(オンライン)@ブリティッシュヒルズ(7月10日まで)【研修地域:リトアニア、エルサレム】
7月11日(日)	海外スタディ・ツアー2.0(オンライン)@幕張キャンパス(24日まで)【研修地域:インド、マレーシア/ボルネオ】
9月15日(水)	後期GLA学生オリエンテーション
9月16日(木)	後期授業開始
10月2日(土)	総合型選抜<前期>を実施(可否通知発送11月1日)
10月13日(水)	GPSテスト報告会開催
10月22日(金)	教員向けワークショップ開催(GLA学部教員向けPD)
11月3日(水)	「研究演習I」及び「ゼミ説明会」開催
11月5日(金)	GLA Community全体会開催
11月12日(金)	大学院進学相談会開催
11月25日(木)	学校推薦型選抜/総合型選抜<後期>/海外経験特別選抜入試を実施(可否発表12月3日)
2022年1月8日(土)	ASC主催スタートアップセミナー開催 GLA学部から31名参加
2月3日(木)	一般選抜<前期>入試(6日まで)を実施(可否発表2月12日)
2月14日(月)	「海外スタディ・ツアー」リトアニア研修(2月21日まで)

II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組

本学部では、以下のとおり、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

神田外語大学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。これを受け、グローバル・リベラルアーツ学部の教育は、「高度な英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る人材を育成」することを目的としている。

本学部では、次のような学生を広く求める。

- (1) 幅広い教養を身につける意欲を持ち、生涯にわたって自立学習者であろうとする人
- (2) グローバルな視点から現代社会の課題に取り組み、平和に貢献する意欲を持つ人
- (3) 本学部での学修に必要な一定程度の英語能力を修得している人
- (4) 本学部での学修に必要な基礎的学力としての知識・技能・思考力を備える人
- (5) 他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働する姿勢を持つ人
- (6) 留学を通じて自己を成長させようとする強い意志を持つ人

1. 入学者選抜の方法等について

上記のアドミッション・ポリシーに基づいて、本学部での学修に必要な、一定程度の英語能力を修得していること、論理的・批判的・創造的思考力を有していること、大学での学修を通じて更にそれを伸ばし、生涯にわたって自立学習者たりえること、グローバルな事象に関心を持ち、将来、世界の平和と発展に積極的に貢献する意思を有すること、留学を通じて自己を成長させる意思を有し、異文化を尊重し、異環境下で他者と共存できること、幅広い分野について学修を深めたいという意思を有することを確認するため、6つの方式で以下のとおり2022年度入学者選抜を実施した。

(1) 入学区分、募集人員、出願基準・条件

入試区分	募集人員	出願基準・条件
総合型選抜	15名	・本学部が定める英語資格基準を満たす者
学校推薦型選抜	15名	・本学部を第一志望とし学校長の推薦がある者 ・当該年度に高等学校(中等教育学校を含む)卒業見込みの者及び高等専門学校の3年次以上を修了見込みの者 ・本学部が定める高等学校等の評定基準を満たす者 ・本学部が定める英語資格基準を満たす者
海外経験特別選抜	若干名	・高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)3年間のうち1学年に相当する期間を外国において修了した者及び修了見込みの者 ・本学部が定める英語資格基準を満たす者

一般入試	15名	・高等学校(中等教育学校を含む)を卒業した者及び 当該年度卒業見込みの者、高等学校卒業程度認定試験 合格者及び合格見込み者等
共通テストプラス入 試	5名	
共通テスト利用入試	10名	
合計	60名	

(2) 入試日程

入試区分		出願期間	試験実施日	合否発表日
総合型選抜	前期	2021年9月1日 (水) ～9月8日(水)	10月2日(土) または 10月3日(日)	11月1日(月)
	後期	2021年	11月25日	12月3日(金)
学校推薦型 選抜	公募学校推 薦入試	11月1日(月) ～11月8日(月)	(木)または 11月26日	
	指定校推薦 入試		(金)	
海外経験特別選抜				
一般入試		2022年 1月4日(火) ～1月21日(金)	A日程: 2月3日(木) B日程: 2月5日(土) C日程: 2月6日(日)	2月12日(土)
共通テストプラス入試			本学試験: 2月5日(土)	
共通テスト利用入試		2022年 1月4日(火) ～1月14日(金)	本学試験(面 接):2月3日 (木)、2月5 日(土)、2月6 日(日)から選 択	

(3) 選抜方法

入試区分	方法	形式
総合型選抜	①書類審査 ②日本語プレゼンテーション(1 0分以内) *プレゼンテーション実施後、自 身のプレゼンテーションについて 振り返りをし、リフレクションシ ートに記入 ③質疑応答・面接(約15分)	・Zoom アプリを使用しオン ライン形式で実施 ・リフレクションシートの記 入には、Google フォームを使 用
学校推薦型選抜		
海外経験特別選抜		

共通テストプラス 入試	①個別学力審査（英語・国語）＋ 大学入学共通テスト1科目（外国 語・国語以外） ②個別面接（約15分）	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学力審査は本学内において対面形式で実施 ・個別面接は受験生が大学内または自宅等での受験を選択する形式 ・個別面接は Zoom アプリを使用しオンライン形式で実施 ・大学内で面接受験する場合においても試験官とは別室で受験する形式
共通テスト利用入 試	①大学入学共通テスト（英語・国 語）＋その他1科目（3科目型）、 その他2科目（4科目型） ②個別面接（約15分）	

2. 入学者選抜の状況について

(1) 入学者の選抜結果

募集年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員 超過率
2021年度	60名	427名	408名	147名	59名	0.98
2022年度	60名	315名	308名	224名	81名	1.35

(2) 志願者及び入学者の状況

地域別の志願者及び入学者の状況は下表に示す。2022年度入学者選抜で志願があったのは29都道府県で、そのうち入学者が出たのは22都道府県であった。なお、出身校の所在地をもって出身地域としてカウントした。

都道府県別志願者数・入学者数集計表

地方区分	都道府県	2021年度		2022年度	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
北海道・ 東北	北海道	11	2	10	3
	青森県	10	3	2	1
	岩手県	4	3	4	2
	宮城県	5	3	4	1
	秋田県	1	1	3	1
	山形県	4	0	2	0
	福島県	6	0	9	2
関東	茨城県	13	2	23	5
	栃木県	10	0	6	2
	群馬県	2	0	1	1

	埼玉県	32	3	19	3
	千葉県	118	16	88	19
	東京都	110	12	69	18
	神奈川県	25	4	16	5
中部	新潟県	15	0	12	3
	富山県	0	0	5	2
	福井県	2	0	3	1
	山梨県	5	1	1	0
	長野県	8	2	3	1
	岐阜県	1	1	2	2
	静岡県	19	2	11	2
	愛知県	2	0	2	1
近畿	滋賀県	0	0	1	0
	大阪府	1	0	1	1
	兵庫県	1	0	1	0
四国	島根県	0	0	1	0
	高知県	1	0	0	0
九州・ 沖縄	福岡県	3	0	2	0
	長崎県	3	1	0	0
	熊本県	2	1	0	0
	鹿児島県	5	1	1	0
	沖縄県	4	1	3	1
その他	高認※ ¹	3	0	6	1
	外国等※ ²	1	0	2	2
	認定	0	0	1	0
	専修学校の高等課程	0	0	1	1
合計		427	59	315	81

※1：高認：高等学校卒業程度認定試験 ※2：外国の学校等修了者

Ⅲ. 教育課程編成の取組

Ⅰ. 教育課程の編成について

(Ⅰ) 基本方針

本学部における教育課程編成の基本方針は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部の教育研究目的は、「広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせること」（学則第2条第3項第2号）としていること、また、上記「Ⅰ. 設置の趣旨及び必要性」及び「Ⅱ. 学部・学科等の特色」を踏まえ、以下のとおり教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や能力を備えた人材を育成するため、以下の点を重視し、体系的にカリキュラムを編成する。

① 教育内容

(ア) 多様な学問領域にわたる幅広い教養

GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目及び演習科目（卒業研究を含む）に区分された各科目を適切な年次に配当し、人文科学、社会科学、自然科学、数理・データサイエンス分野などの幅広い学問領域をバランスよく学ぶカリキュラムを提供する。加えて、1年次前期の海外スタディ・ツアー、3年次後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への留学において、日本国内では得られない様々な体験や、地域、言語、宗教、価値観などの異なる文化背景を持つ人々との交流を通じて、広義の教養を身につけることを目指す。

(イ) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解

1年次前期に「グローバル・チャレンジ・ターム」を設け、異文化・異環境を知ることが目的とした入学直後の海外スタディ・ツアーを基軸に、関心のあるテーマを掘り下げ、大学4年間における学びを方向付けるための教育を提供する。2年次以降に、文化、歴史、宗教、社会や共同体、国際関係やガバナンスなどについての知識に基づき、深い文脈でグローバルな事象を理解する力を養う。具体的には、カリキュラムの中核をなす3領域の専門教養科目群（“Humanities”、“Societies”、“Global Studies”）を設置し、人文科学と社会科学のさまざまな知識と方法論を身につけ、それらを総合的に活用する能力を研鑽する教育を提供する。

(ウ) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力

1年次前期の英語の授業では、プレゼンテーション/ディスカッション、ライティングなど、スキルごとの到達目標を定め、継続性、統合性、個性を重視した指導により、段階的に目標達成に取り組む。1年次後期から2年次にかけては内容・言語統合型学習（CLIL: Content and

Language Integrated Learning) の授業や英語で行われる専門教養科目を展開することで高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、3年次後期には SUNY への半年間の留学の機会を提供する。

(エ) 論理的かつ批判的な思考力

1年次に大学での学びに必要な基本的な読解力と言語表現力を養成する科目「基礎演習(アカデミック日本語)」を配置し、文献や情報の収集・読解の方法とレポートの書き方を学ぶ。2～3年次にはアクティブ・ラーニングを基本とする演習形式の授業「講読演習」、「研究演習」と、英語による“Discussions and Presentations”、“Media Literacy”、“Global Communication”等の授業を配置し、日本語と英語の両方における読解力、対話力、言語表現力を高めていくことで総合的に論理的・批判的思考力を研鑽する。さらに3年次後期には SUNY への半年間の留学を設定し、異文化環境において多角的で柔軟な思考力を修練する。最終的には4年次に取り組む卒業研究においてそれぞれの能力を十分に発揮することを目指す。(オ) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力

1年次は、異文化環境において各地域の現状を見聞し、その体験の意味とその後の学修の方向性を学生自らが考察するための問題解決型の授業「グローバル・ディスカバリー」、オムニバス講義で平和や共生に対してどのように各学問領域からのアプローチが可能かを考える「グローバル・リベラルアーツ入門」、身体活動やアクティビティを通じて他者との協働性を実践的に培う「アドベンチャーコミュニケーションプログラム (GLA)」を置く。これらの学びと研究の方向性に従って、「専門教養科目」において具体的な課題発見・解決の方法や知識を修得し、その成果を「卒業研究」にまとめていく。また、1年次に「キャリアデザイン (GLA)」を、3年次前期に「グローバル・キャリア」を置き、学生がグローバル社会で自己のキャリアをいかに確立し社会と関わっていくかを考察する機会を設ける。

(カ) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

異なる文化や価値観、社会の多様性に対する理解を深めるため、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目といったグローバルな視野を身につける科目を配置する。また、学生が異文化や共生社会を理解し尊重する姿勢を修得するために、異なる環境での適応力育成の機会となる、入学直後の「グローバル・チャレンジ・ターム」や、3年次後期の SUNY への半年間の留学の機会を提供する。

② 教育方法

・授業では、アクティブ・ラーニングを導入することにより、学生の専門知識とその運用能力、思考力と積極的な学修態度を養う。

・1～2年次はスキルを中心とした英語授業を展開し、1年次後期からは CLIL の授業を履修させることで、「英語を」学ぶよりも「英語で」実践的かつ専門的な学修・運用能力を高める機会を提供する。

・学生の主体的な学修態度と学修能力を養うため、問題解決型授業を実施する。学生が課題を発見し、具体的な解決策を考えることができる教育を提供する。発表の場を通じて、学生のコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップを養成する。

・現代のグローバル社会で必要な幅広い教養を身につけるため、外国語科目の他、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目を教育課程に含める。基礎教養科目 B 群では、AI やデータサイエンスを身につけるための科目を含み、文理融合の教養を育む。

③ 学修成果の評価

・学修成果は、学生の授業科目の履修状況、各教育課程で達成した成果、および学士課程全般の成果を、教職員を中心として行う直接評価と、学生が自己の学修成果を主観的に判断する自己評価等の間接評価を通じて定期的に評価することとする。

・学生の学修状況は量と質の双方から観察し、学修ポートフォリオに記載させるなど、学修成果の可視化を図るとともに、学生の4年間の成長を段階的に評価する。

このような教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、GLA 学部開設初年度の授業科目は、以下の科目群、カリキュラム表及びシラバス（主要）に基づき、4月19日から授業を開始した。

【開講科目一覧】

科目区分	必・選	科目コード	科目名	単位数
外国語	必修	180001	Academic Reading(a)	1
外国語	必修	180002	Academic Reading(b)	2
外国語	必修	180003	Academic Writing(a)	1
外国語	必修	180004	Academic Writing(b)	2
外国語	必修	180005	Academic Discussions & Presentations(a)	1
外国語	必修	180006	Academic Discussions & Presentations(b)	2
外国語	必修	180007	English for Academic Purposes(a)	2
外国語	必修	180008	English for Academic Purposes(b)	2
外国語	必修	180009	Self-Directed Learning	1
外国語	必修	180010	TOEFL ITP 演習	1
GLA 基礎	必修	310001	グローバル・ディスカバリー I	1
GLA 基礎	必修	310002	グローバル・ディスカバリー II	1
GLA 基礎	必修	310003	グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）	4
GLA 基礎	必修	310004	グローバル・リベラルアーツ入門 I	1
GLA 基礎	必修	310005	グローバル・リベラルアーツ入門 II	2
GLA 基礎	必修	310006	グローバル・ヒストリー	4
GLA 基礎	必修	310007	キャリアデザイン(GLA)	2
GLA 基礎	必修	310008	アドベンチャーコミュニケーションプログラム(GLA)	1
演習	必修	608001	アカデミック日本語 I	2
演習	必修	608002	アカデミック日本語 II	2

【カリキュラム表】

グローバル・リベラルアーツ学科			1年次						
			前期(グローバル・チャレンジ・ターム) ※				後期		
			第1ターム		第2ターム				
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
外国語科目	英語科目	必修	Academic Reading (a)	1	グローバル・ディスカバリー (フィードバック)		Academic Reading (b)	2	
			Academic Writing (a)	1			Academic Writing (b)	2	
			Academic Discussions & Presentations (a)	1			Academic Discussions & Presentations (b)	2	
			English for Academic Purposes (a)				2	English for Academic Purposes (b)	2
			Self-Directed Learning(オンライン科目)				1	TOEFL ITP 演習	1
				TOEFL ITP480 (TOEFL iBT54相当)の取得を目標とする。					
	選択外国語科目	選択必修							
GLA基礎科目		必修	グローバル・ディスカバリー I	1	グローバル・ディスカバリー II	1	グローバル・ヒストリー	4	
			グローバル・リベラルアーツ入門 I	1	アドベンチャー・コミュニケーションプログラム(GLA)	1	グローバル・リベラルアーツ入門 II	2	
					グローバル・ディスカバリー(フィードバック)	4	キャリアデザイン(GLA)	2	
基礎教養科目		A群 B群	選択必修						
専門教養科目		選択必修							
演習科目	基礎	必修	アカデミック日本語 I			2	アカデミック日本語 II	2	
	講読	選択必修							
	研究	必修							
履修登録上限単位数 (CAP)			必修のみ (16単位)			必修のみ (19単位)			

※ 1年次前期は「グローバル・チャレンジ・ターム」となっており、約3週間の短期留学である海外スタディ・ツアーを基軸に、前半8週、後半8週での合計16週で、大学4年間における学びを方向付ける期間となっています。
: 海外留学期間

【主なシラバス [授業の目的]】

English for Academic Purposes(a)

[COURSE DESCRIPTION]

The focus of the EAP course is on preparing students for academic success in the Faculty

<p>of GLA, in terms both of English-language proficiency and study skills to become independent learners. EAP is the course in the curriculum that focuses on the accelerated development of English for students on entry to the faculty. It covers pre-intermediate to intermediate grammar structures and readings of a wide range of social science topics. Students will work to develop their English and study skills while studying academic course contents.</p>
<p>グローバル・ディスカバリー I</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>1 年次必修のグローバル課題学習と課題解決について考える PBL (Project Based Learning) 型の授業である。私たちを取り巻く世界はどんな世界なのか？どんな課題があるのか？そして、そのために私たちは何ができるのか？それを学んで考えるための第一歩として、最初の学期でグローバル・ディスカバリー (フィールドワーク) に参加する。この授業はそのための第一ステップとなる。グローバル課題に関する動画を観てディスカッションをしたり、社会課題解決を実践している人物や団体を訪問し、協働学習を通して、学生が主体的に学び、行動するマインドセットを身につける。</p>
<p>グローバル・リベラルアーツ入門 I</p>
<p>[カリキュラム上の位置づけ]</p> <p>グローバル・リベラルアーツ入門は、グローバル・リベラルアーツ学部カリキュラムの基本理念である「平和のためのグローバル教養 (Global Liberal Arts for Peace)」の意味を学び、学生各自が4年間を通じての学びを自ら方向づけていくためのオリエンテーションとなる基礎的な科目です。この科目では、本学部で身につけられる探究の内容と知識の内容の基礎を学び、専門教養科目へ橋渡しすることを目指します。こうした科目の目的により、授業は複数の教員が担当するオムニバス方式を採ります。</p> <p>[テーマと目的]</p> <p>グローバル・リベラルアーツ入門 I では、グローバル時代の教養とは何かを考えます。授業の各回では文学、哲学、宗教学、歴史学、日本思想文化論、社会学の各学問領域の探究対象と考え方の講義とそれに基づくディスカッションを通じて、グローバル時代の教養とは何かを考えるとともに、学問的な知識と論理を支えに批判的に考えることの重要性を理解することを目指します。</p>
<p>アドベンチャーコミュニケーションプログラム(GLA)</p>
<p>[授業概要]</p> <p>Adventure Communication Program(ACP)は協力が求められる身体活動やコミュニケーションアクティビティ、課題解決・意志決定を促す活動で構成され、グランドアクティビティやローエレメント(1)、ハイエレメント(2)などユニークな活動を体験する。これらはグループ活動が用いられ、グループの状態や目的によって活動内容が異なり、体験活動を通し、社会的な課題発見、または解決する能力を養う。(DP(5)に相当) また、この体験学習を通し、学びのプロセスを身に付け、お互いを認め、尊重し合うこと、柔軟な心で</p>

<p>コミュニケーションができること、チャレンジの大切さを学ぶ。これらを通し、異なる価値観や文化的背景、社会の多様性の理解と尊重する姿勢を身に付けることを目指す。</p> <p>(DP(6)に相当)</p> <p>(1)ローエレメント：比較的地面に近い位置に設置されたロープスコース（人が互いに支え合い安全を確保する）</p> <p>(2)ハイエレメント：地上から高い位置に設置されたロープスコース（参加者が命綱（ビレイ）を使ったシステムで安全を確保する）</p>
<p>グローバル・ヒストリー</p>
<p>[授業の概要]</p> <p>世界の各地では、個人、集団、街、国、地域といった多層なレベルで、数多くの出来事が起きています。そして同じように昔から種々の出来事が起こってきました。本授業では、今日の世界がどのような歩みを辿ってきたのか、16世紀以降の近現代における様々な出来事を見ながら、世界を牽引した流れとその中心的な事象を学んでいきます。その際とくに、過去の出来事が日本を含めた現代の世界とどうつながり、今日の諸現象と関わっているかについて着目してみます。また近現代の動きの中心にあったヨーロッパに焦点を当てつつも、そこでの事象が他の地域とどのようにつながっていたかについて目を向けていきます。そのような時間と場所の2つの「つながり」を意識しながら、世界、あるいはグローバルな空間の歴史を考えてみたいと思います。その作業を通じて、グローバル化がうたわれる現代において、過去とどう向き合い、現在の位置をどのように理解し、捉え直すことができるのかについても考察を深めていきたいと思います。</p>
<p>アカデミック日本語Ⅰ</p>
<p>[授業の目的]</p> <p>大学での学び、研究を行うために必要な日本語能力を高め、論理的に考える力を身につけることを目的とする。主体的に考え、客観的な根拠を示しながら自分の考えを組み立てるプロセスを実践的に学び、道筋を立てて自分の考えを説明する。また、レポート作成の基礎を学び、論点を定め、自分の考えを明確にし、文章化していく。個人的な意見にならないよう、信頼性のある証拠を裏づけとして実証する必要があるため、文献の内容を正確に読み、要点を整理し、適正な形式で文章を要約する。</p>
<p>キャリアデザイン(GLA)</p>
<p>キャリア教育科目の入門編と位置付けられる講座です。「キャリアをデザインする」とは、仕事だけでなく、自分の生き方を思い描くことです。「人生100年時代」には、大学で勉強を終え、定年まで働き、引退するという3段階のモデルではなく、学びながら様々なことを体験し、70代まで働き続けるマルチステージの人生に変わっていきます。GLAの学生にとって魅力のある仕事は何か。大学での学びをどのように活かしたらいいのか。講義やディスカッション、現役社会人（ゲストスピーカー）の話を通して、グローバルな視点で自分の将来について考えていきましょう。授業は日本語と英語を併用します。</p>

(2) 特色と特記事項

教育課程編成の基本方針に基づく本学部の教育課程は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおりその概要を記載している。

本学部の教育課程は、①外国語科目、②GLA 基礎科目、③基礎教養科目、④専門教養科目、⑤演習科目及び⑥卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）に体系的に区分され、次のとおり編成している【資料 1、2】。

① 外国語科目

(ア) 英語科目

英語運用能力の養成に力を注ぎ、オンライン授業を活用しつつ、順次性のある体系的な教育課程を編成する。本学部では、2回の留学を念頭に置き、英語4技能（「聞く（listening）」、「読む（reading）」、「話す（speaking）」、「書く（writing）」）習得のための授業に加え、コンテンツ・ベースの英語（CLIL）科目を設置する。CLILは、海外留学の準備として、様々な専門分野の入門レベルの内容を英語で学ぶ科目である。

(イ) 選択外国語科目

選択外国語科目として、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を履修可能とする。2年次以降の履修が必修である。

② GLA 基礎科目

1年次の必修科目として、「グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ」（グローバル課題学習及び課題解決型授業）、「グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ」（グローバル時代の教養について学ぶ）、「グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ」（グローバル時代の平和について学ぶ）、「キャリアデザイン（GLA）」「アドベンチャー・コミュニケーションプログラム（GLA）」（協力が求められる身体活動及びコミュニケーション・アクティビティ）、「グローバル・ヒストリー」がある。「海外スタディ・ツアー」に必要な GLA 基礎科目を事前・事後に履修し、1年次の「グローバル・チャレンジ・ターム」のプログラムの一環とする。

3年次前期では、「グローバル・キャリア」を必修とし、3年次後期の海外留学とその後のキャリア・プランを学生が見据えることをねらいとする。

③ 基礎教養科目

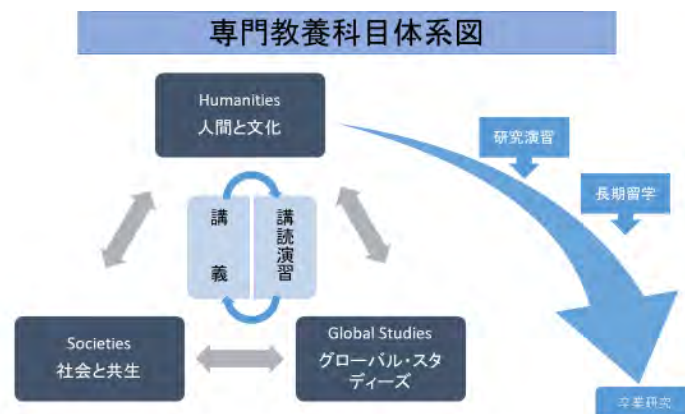
A群(外国語学部と共有する科目群)では、人文科学分野（「歴史学」、「哲学」等）、社会科学分野（「社会学」、「法学」等）、自然科学分野（「自然科学概論」、「生物学」等）の科目を設定する。

B群は本学部独自の科目群で、「数的思考法」、「デジタル・シチズンシップ論」、「データ・サイエンス概論」、「コンピュータ・サイエンス概論」、「ビッグデータ解析論」、「エビデンスと評価」の科目を設定し、文理融合の教養教育を涵養する。

④ 専門教養科目

専門教養科目は、「Humanities（人間と文化）」「 Societies（社会と共生）」「 Global Studies（グローバル・スタディーズ）」の科目群から構成される。「Humanities」では、「宗教文化論」、「芸術文化論」、「人間と文学」、「人間と思想」、「世界近現代史」、「文化人類学」から選択履修す

る。「Societies」では、「共生社会論」、「社会と多様性」、「社会とサステナビリティ」、「現代社会とイノベーション」、「言語・文化とコミュニケーション」、「デジタル・メディアと社会」、「異文化コミュニケーション論」から選択履修する。「Global Studies」では、「グローバル・ガバナンス」、「地域とグローバル・世界」、「グローバル平和論」、「国際法」、「国際機構論」、「国際開発論」の科目からの選択履修が可能である。なお、これら3つの講義科目群に対応した演習科目（講読演習）が用意されており、これにより研究演習、そして卒業研究へと専門性が深化する仕組みとなっている。



⑤ 演習科目（アカデミック日本語、研究演習）及び卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の必修化

1年次の基礎演習として、「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ」を通年で実施し、日本語能力の向上のほか、論理的思考と課題設定能力を育成する。

2年次後期以降は、「講読演習」を履修する。「講読演習」には、専門教養科目同様の3つの科目群（「Humanities」、「Societies」、「Global Studies」）があり、各科目に関連して文献精読・発表・議論を行う。今まで履修した科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶことを目的とする。

本学部の学生は、3科目（半期科目の「研究演習Ⅰ」・「研究演習Ⅱ」と、通年科目の「研究演習Ⅲ」）の研究演習（ゼミ）を履修する。本学部では、ゼミは必修であり、2～4年次にかけてゼミを漸次履修することにより、学生の関心のあるテーマを設定し、適切な方法論を用いた卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）へと円滑につなげる。

⑥ 卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）

本学部では、卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の履修は、文章（文献）を読む力、討論する力、文章を書く力、論理的に考え、分析する力を育成する上においても有意義であるとの考えに基づき、研究演習の履修とともに必修である。本学部では、大学生生活の学びの集大成（Capstone）として卒業研究を完成させる。

GLA学部教育課程の概要						
授業科目／学年		概要	1年	2年	3年	4年
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力の獲得	→	→	→	→
	選択外国語科目	もう一つの言語運用能力の獲得	→	→	→	→
GLA基礎科目		リベラル・アーツを知る、学ぶ スタディツアーの準備、振り返り	→	→	→	→
基礎教養科目	A群	幅広い教養を身につける	→	→	→	→
	B群	AIやデータサイエンスを身につける	→	→	→	→
専門教養科目	Humanities(人間と文化)	3分野にわたり、発展的な教養を講義と演習(講読)により身につける	→	→	→	→
	Societies(社会と共生)					
	Global Studies(グローバル・スタディーズ)					
演習科目	基礎演習	日本語能力の向上、論理的思考と課題設定能力を育成	→	→	→	→
	講読演習	既習科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶ	→	→	→	→
	研究演習	学生の関心のあるテーマを設定し、卒業研究へとつなげる	→	→	→	→

①特色

また、教育課程における特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

また、本学部での教育課程編成上の特色は以下の9点である。

- ① 建学の理念に基づく「平和」についての徹底的な学修
- ② ・ 本学は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を建学理念としている。この本学の建学理念である「平和」を学部教育の根幹に据えて、言語・コミュニケーションを含む幅広い観点から学修する。
- ② 高度な英語運用能力の修得
 - ・ グローバル化の時代に不可欠な英語力を高め、卒業時まで TOEFL ITP580 (TOEFL iBT92相当) を達成することを目標とする。
- ③ これからの社会で必要とされる幅広い教養教育の涵養
 - ・ 人文・社会科学から数理・自然科学にわたる教養科目を設置し、文理融合の教育を実践する。
- ④ 徹底した少人数教育
 - ・ 英語科目のうち言語運用能力そのものの向上を目的とした授業については原則として 20 名以下、内容・言語統合型学習(CLIL)の授業の場合は 30 名以下にする。
 - ・ 専門教養科目については 1 クラスの人数を、20~40 名程度となるよう開講する。
 - ・ 「研究演習」は 1 クラス 10 名程度を標準とする。
- ⑤ 演習科目及び卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)の必修化
 - ・ 学生による自発的学習の場である演習科目は必修とする。

・ 入学時は「アカデミック日本語」の履修により日本語での「考える力」と「書く力」の強化を図る。また、2～4年次では「研究演習」(ゼミ)を継続して履修することにより、「卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)」につなげるなど、演習科目を大幅に拡充する。

⑥ 課題解決型学習、アクティブ・ラーニングによる授業編制

・ 一般科目についても、出来る限り、ゼミ形式又はアクティブ・ラーニング形式で実施する。

⑦ 「グローバル・チャレンジ・ターム」導入

・ 1年次前期を本格的な大学教育に先立つ「ギャップ・ターム期間」として位置づけ、特別なカリキュラムを設定する。

・ 期間の中核に「海外スタディ・ツアー」を位置づけ、事前学修・事後学修を併せた効果的なプログラムを構築する。

⑧ 2回の留学を必修化

・ 入学直後の「海外スタディ・ツアー」(必修)は、異文化・異環境を体験し、グローバルな感性・多文化共生の観念を身につけ、将来を見据えた学修の目標立てに資することがねらいである。

・ 3年次後期に長期留学(SUNY: 1セメスター)を必修にする。さらに海外ボランティア等の活動を推奨する。

⑨ 教育成果の可視化

・ 各種の学修成果の可視化と大学時代に大学の内外で学修した成果を証明する仕組み(ポートフォリオ形式など)を構築する。

以上、①から⑨の特色のうち、2021年度における特記事項は次のとおり。

② 特記事項

⑧ 2回の留学を必修化

本学部では、ディプロマ・ポリシーをふまえ、短期海外研修及び長期留学の計2回の留学を必修としている。

1回目は、入学直後の1年次の6～7月にかけて行われる約3週間の「海外スタディ・ツアー」であり、2回目は、3年次の後期のニューヨーク州立大学(SUNY)への1セメスター留学である。

2回のうちの1回目の「海外スタディ・ツアー」について、「設置の趣旨等を記載した書類」において次のとおり記載している。

① 目的・概要

本学部独自の取組として、入学後のセメスターにおいて、「海外スタディ・ツアー」をコア・カリキュラムとする「グローバル・チャレンジ・ターム」を設定する。

このタームは、いわゆる「ギャップ・ターム」としてとらえており、本格的な学部教育がスタートする前の半年間で、何のために学ぶのか、どう自身の能力や関心を涵養するのか、また、学んだことを用い社会でどう自己実現していくかなどを、学生に深く考えさせるための時間として位置づけ、特別なカリキュラム編制を行っている。

そのカリキュラムの中核となるのが、地域ごとに特色のあるフィールドワークを組み込んだ「海外スタディ・ツアー」であり、入学直後の第1年次の6～7月に約3週間の日程で実施する。

「海外スタディ・ツアー」は、以下の諸点を目的として実施する。

(ア) 入学後間もない時期に実施することから、第一義的に、異文化にふれることで刺激(カルチャー・ショック)を与えるとともに、異環境下での生活・学修を体験することで、グローバルな感性、多文化共生力の涵養、新たな課題や困難に直面した際の問題解決能力の醸成を図ること

(イ) 建学の理念である平和について深く学ぶこと、また、地域によっては、学校、児童養護施設などでボランティア活動を行うことにより、格差、貧困、環境、移民・難民問題などグローバル化した現代社会が抱える課題について、自分自身その解決に何ができるか考えさせること

(ウ) 各国・地域ごとに、専門教養科目で学ぶ「人間と文化」、「社会と共生」、「グローバル・スタディーズ」の各分野の課題やSDGsに関連したテーマを深く学び、1年次後期からの学修の方向性や動機づけを図ること

このようなことから、「海外スタディ・ツアー」では、本学部の学修内容に合致し、かつ、通常、大学初年次では渡航する機会が限られると思われるインド、リトアニア、エルサレム、マレーシア・ボルネオに学生を派遣することとしている。

なお、学生を海外に送るにあたっては、今般の新型コロナウイルス感染に伴う収束状況を慎重に見極めるほか、これら地域の状況の変化やその他感染症の発生など、安全対策が最大の課題と認識しており、この点に最大限配慮して実施することとしている。

以上の目的に基づき準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延の影響を受けて、当初予定していた時期に海外へ出すことを延期することとし、オンラインで4地域と結んで学修をおこなう代替プログラム「海外スタディ・ツアー2.0」を、本学の国際研修施設のブリティッシュ・ヒルズ(BH)での宿泊研修を含む4週間の日程で実施した。

2021年6月27日から開始した、「海外スタディ・ツアー2.0」のプログラム内容は次のとおり。

当初計画では、学生は、1地域のことを重点的に学ぶこととなっていたが、オンラインに切り替えたことにより、4地域すべてに関し、一定の学修をおこなうことが可能となったというメリットが生まれた。

海外スタディ・ツアー2.0 プログラム1週目 リトアニア (BH 宿泊研修)

Study Tour 2.0 1st week (27 June ~3 July) Lithuania Program								
		6月27日(日)	6月28日(月)	6月29日(火)	6月30日(水)	7月1日(木)	7月2日(金)	7月3日(土)
朝食	7:00-9:00		朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
1限	9:00-10:30		BHセッション(英) REVEN	BHセッション(英) REVEN	BHセッション(英) REVEN	BHセッション(英) Discussion Series SDGs	BHセッション(英) Adventure Series SDGs	8:00 福島FT
			オンラインセッション振返り ディスカッション/分析	オンラインセッション振返り ディスカッション/分析	オンラインセッション振返り ディスカッション/分析	SDGs 授業連携	被災地FT事前学修	
2限	10:40-12:10		KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) 事前学修	11:00 I: 原子力災害伝承館 II: 双葉町 FT III: 昼食
			リトアニア授業に向けた英語準備(Eng)	リトアニア授業に向けた英語準備(Eng)	リトアニア授業に向けた英語準備(Eng)	リトアニア授業に向けた英語準備(Eng)	リトアニア授業に向けた英語準備(Eng)	
昼食	12:10-13:10	12:30 大学集合	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
3限	13:10-14:40		KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	13:00 住民との交流
			(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	
4限	14:50-16:20		VMGセッション Course Orientation	VMGセッション Jewish Community in Lithuania	VMGセッション Japan-Lithuania relations	VMGセッション Baltic States in EU and NATO	VMGセッション English for Presentations	14:30 伝承館出発 15:00 東京電力資料館 I: 東京電力福島復興 本社代表との対話 II: 資料館見学
5限	16:30-18:00	17:00 BH到着	VMGセッション An Outline of the Lithuanian History	VMGセッション Virtual guided tour to Sugihara House	VMGセッション VMU Japanese culture club Hashi online event	VMGセッション Virtual guided tour to the 9th Forth museum	VMGセッション Wrap up session	16:30 資料館出発
		オリエンテーション①						
夕食	18:00-19:30	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
6限	19:30-21:00	オリエンテーション②	KUISセッション(日) 振返り	KUISセッション(日) 振返り	KUISセッション(日) 振返り	KUISセッション(日) 振返り	KUISセッション(日) 振返り	夕食
			*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	

海外スタディ・ツアー2.0 プログラム2週目 イスラエル (BH 宿泊研修)

Study Tour 2.0 2nd week (4 July ~10 July) Jerusalem Program								
		7月4日(日)	7月5日(月)	7月6日(火)	7月7日(水)	7月8日(木)	7月9日(金)	7月10日(土)
朝食	7:00-9:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	
1限	9:00-10:30	Free Time	BHセッション(英) Adventure Series SDGs	BHセッション(英) Let's Start a Business	BHセッション(英) Let's Start a Business	BHセッション(英) Group Presentation	BHセッション(英) Group Presentation	
			オンラインセッション振返り 福島FT 振返り	オンラインセッション振返り Re-Design Region	オンラインセッション振返り Re-Design Region	オンラインセッション振返り Output	オンラインセッション振返り Output	
2限	10:40-12:10		KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) 事前学修	KUISセッション(英) プレゼンテーション	
			イスラエル授業に向けた英語準備(Eng)	イスラエル授業に向けた英語準備(Eng)	イスラエル授業に向けた英語準備(Eng)	イスラエル授業に向けた英語準備(Eng)		
昼食	12:10-13:10	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
3限	13:10-14:40	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修		
		(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	(5/9) 'A'に準じて)テーマに関する背景知識・情報の収集・理解(Jp), 質問立てなど(En)。	13:00 BH出発	Free Time
4限	14:50-16:20	パレスチナ・セッション JICA支援, 事情-JICA職員, ガザ支援ナショナルスタッフ	HUJセッション The Contemporary Middle East: Between Nationalism and Islam	HUJセッション Israeli Society: An Overview	HUJセッション Israel in the Middle East: From Isolation to Limited	HUJセッション Special Workshop with HebrewU Students		
5限	16:30-18:00	パレスチナ・セッション 難民キャンプ, ヨルダン川沿岸地域事情: 現地人	HUJセッション The Emergence of the Modern State of Israel	HUJセッション Virtual Tour: Yad Vashem (The Holocaust Museum)	HUJセッション Virtual Jerusalem Tour	HUJセッション Presentations + Closing	17:00 KUIS到着・解散	
夕食	18:00-19:30	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食		
6限	19:30-21:00	KUISセッション(日) 振返り	KUISセッション(日) 振返り	KUISセッション(日) 振返り	東京電力福島復興本社 交流座談会	KUISセッション(Jp) Wrap-up		
		*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	*「学んだ事・気づいた事」等をグループ共有, お互いにコメントし合ったり, 補い合ったりする	東京電力福島復興本社 副所長・部長との座談会	BH研修まとめ 次週プログラム(難民キャンプ)に向けてのセットアップ		

海外スタディ・ツアー2.0 プログラム3週目 インド (幕張キャンパス)

Study Tour 2.0 3rd week (11 July ~17 July) India Program								
		7月11日(日)	7月12日(月)	7月13日(火)	7月14日(水)	7月15日(木)	7月16日(金)	7月17日(土)
1限	9:00-10:30	Free Time						
2限	10:40-12:10		KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り
昼食	12:10-13:10		昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
3限	13:10-14:40		KUISセッション(日・英) 事前学修	マレーシア大使館 オンラインセッション	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修
4限	14:50-16:20		Symbiosisセッション	Symbiosisセッション	Symbiosisセッション	Symbiosisセッション	Symbiosisセッション	Symbiosisセッション
5限	16:30-18:00	Food and Festivals of India	Warli Painting					

海外スタディ・ツアー2.0 プログラム4週目 マレーシア/ブルネイ (幕張キャンパス)

Study Tour 2.0 4th week (18 July ~24 July) Malaysia/Borneo Program								
		7月18日(日)	7月19日(月)	7月20日(火)	7月21日(水)	7月22日(木)	7月23日(金)	7月24日(土)
1限	9:00-10:30	Free Time						
2限	10:40-12:10		KUISセッション(Jp&En) 事前学修	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り	KUISセッション(日) 振り返り
昼食	12:10-13:10		昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
3限	13:10-14:40		KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修	KUISセッション(日・英) 事前学修
4限	14:50-16:20		Swinburneセッション Course Orientation	Swinburneセッション FINE ARTS AND CRAFTS OF SARAWAK	Swinburneセッション BIODIVERSITY OF SARAWAK	Swinburneセッション MOVING TOWARDS UNITED NATION'S SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS	Swinburneセッション SUSTAINABLE DEVELOPMENT STRATEGIES IN SARAWAK	Swinburneセッション Project Presentation with LOCAL AND INTERNATIONAL STUDENTS
5限	16:30-18:00	INDIGENOUS PEOPLE AND IMMIGRANTS OF SARAWAK	VIRTUAL CULTURE TOUR TO THE TUN JUGAH FOUNDATION	ENVIRONMENTAL ISSUES IN SARAWAK	VIRTUAL INDUSTRIAL VISIT TO SARAWAK TIMBER ASSOCIATION	SETTLEMENT EXPERIENCE OF CHINESE IN SARAWAK	WWF-MALAYSIA'S CONSERVATION WORK IN SARAWAK RELATED TO TOTALLY PROTECTED AREAS	

このプログラムの学生からの評価について、2021年度海外スタディー・ツアー2.0 アンケート集計結果では、『評価回答者のうち88%が「大変良かった」または「良かった」という評価をしており、「どちらとも言えない」、「あまり良くなかった」と答えた学生は12%であった。「BHでの2週間の宿泊研修は、学修面でも生活や人間関係構築の面でも大変であった。」との感想が多くの学生から寄せられているが、概して、学生は、「コンテンツが素晴らしく、4カ国を4週間で学ぶ機会はなかなかないため非常に良い経験をした。」「新たな視点を養うことができた」というように前向きに今回の体験を受け止めている。』と記載されている。

海外スタディ・ツアー2.0 in リトアニア

コロナ禍で海外渡航が制限されるなか、2022年2月の時点で海外スタディ・ツアーの留学先となっている4つの国・地域の中で唯一入国が可能だったリトアニアで、一週間の海外研修を実施した。歴史や文化を学ぶための関連施設見学やヴィータウタスマグヌス大学の学生との交流など、「海外スタディ・ツアー2.0」で学んだものや事柄にふれ、体感したリトアニア研修。そして、学生たちの帰国から3日後にロシアがウクライナへ侵攻。世界の歴史の転換点に立ち合い、平和を深く考える研修でもあった。

(日程・研修行程)

日程	研修行程
2月14日 (月)	8:30 成田空港集合 11:55 成田空港発 (AY074便) 15:10 ヘルシンキ空港着 16:25 ヘルシンキ空港発 (AY1105便) 18:05 リトアニア・ヴィルニウス空港到着 19:00 カウナス市へ移動
2月15日 (火)	09:30-10:45 杉原千畝記念館 (SUGIHARA HOUSE) 見学 11:00-13:00 カウナス市街地ツアー (Old town & New Town) 13:00-14:30 ランチ 15:00-17:30 第9要塞博物館 (9 th Fort) 見学
2月16日 (水)	リトアニア独立記念日 (国民の祝日) 10:00-11:45 ヴィータウタス大公戦争博物館見学 12:00-13:00 独立記念セレモニー @ Vienybes aikste 13:00-14:30 ランチ 14:45-16:15 国立チュルニョーニス美術館見学 16:30- 自由行動
2月17日 (木)	9:00-11:00 ヴィータウタス・マグヌス大学生との交流会 11:00-12:30 ランチ 12:30-16:30 リトアニア民俗生活博物館見学 (雨天: 悪魔博物館見学他) カウナス市役所訪問 18:00- 演劇鑑賞 @ カウナス国立演劇劇場
2月18日 (金)	PCR検査および自由行動 9:00 PCR検査 第1グループ (20名) 13:00 PCR検査 第2グループ (20名) 16:00 PCR検査 第3グループ (16名) 18:00-19:00 Hashi club交流会
2月19日 (土)	8:30-10:00 ヴィルニウス市へ移動 10:30-12:30 ヴィルニウス旧市街ツアー 12:45-14:15 ランチ 14:30-16:15 リトアニア大公宮殿/国立博物館見学 16:30-18:00 リトアニア占領と自由のための戦い国立博物館 18:00 自由行動 @ Akropolis Vilnius
2月20日 (日)	11:30 ホテルを出発 → ヴィルニウス空港へ 13:40 ヴィルニウス空港発 (AY1108便) 15:30 ヘルシンキ空港着 17:30 ヘルシンキ空港発 (AY073便)
2月21日 (月)	10:00 成田空港着

歴史の転換点に立ち合ったリアル留学 海外スタディ・ツアー2.0 in リトアニア 2022.2.14～2.20

1. スタディーツアーのプログラムおよびプログラム

* 期間 2022年2月14日(月)～2月21日(月) 6泊8日

* 場所 リトアニア(カウナスおよびヴィリニウス)

* 参加者 GLA 学部学生33名(男性6名、女性27名)

2. スタディーツアーの実施にあたり特に重視した事項

① GLA 学部の DP・CP にそったプログラムの実現

GLA 学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーをふまえ、「実際に現地を訪問することで、リトアニアおよびその歴史・社会などを十分に理解できること」、「リトアニアのテーマである「平和」について深く考えさせることができること」を念頭に、VMU のコーディネーターと協議のうえ、プログラムを策定すること

② 感染対策と危機管理対応の徹底

フィールドワークが主体となる今回のツアーでは、現地の新型コロナウイルス感染症の感染状況をふまえ、徹底した感染対策に取り組むことで、安心安全なスタディ・ツアーを実現し、現地で感染者を出さないこと、また、万が一の場合の危機管理体制を構築すること

③ メールマガジンの刊行

リトアニアでの学生の活動について、保護者の方々に知ってもらい安心してもらうことや、大学の関係者、将来 GLA の受験を考えている高校生に、海外スタディ・ツアーの理解促進に役立つ目的で、滞在中は毎日メールマガジンを発刊することとした。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/blog/tag/gla/>

3. 実施結果/学生の満足度、評価および課題、改善が必要な事項

* 「海外スタディ・ツアー全体に対する学生の満足度」は非常に高く、「大変良かった」、「良かった」を合わせ、93%の学生が積極的な評価をしている。学生の意見は、「オンラインでは学びきれなかったことを現地で学ぶことができた」、「学んだ英語を活用することができた」、「自国の文化と異なる文化を学ぶことができた」に集約でき、昨年6～7月にオンラインによるプログラムを実施し、今回、実際に現地でフィールド・ワークに参加する2段階となったことが、結果的に成果につながったものとする。また、少なからぬ学生のコメントのなかに、「GLA 学部に入學して良かったこと」、また、「コロナ禍に加えウクライナ情勢が不透明ななかで、海外スタディ・ツアーが実施できたこと、また、関係者が尽力のうえ、思い切って実施したことで、一生の思い出になるかけがえのない経験をすることができたことに対するよろこびと感謝の気持ち」が述べられていた。

* 「リトアニアでの活動プログラムに対する満足度」は、ほぼ毎日、午前と午後に見学・訪問や交流会などのプログラムを設定したが、96%の学生が、「大変良かった」、「良かった」と回答しており、大変満足度が高かった。学生の意見で主なものは、「歴史や宗教、文化、建物などリトアニアについて幅広く知ることができた」、「歴史や現地の雰囲気から平和について考える機会になったため」などであった。一方で、「日程が窮屈で自由に見て回れる時間がほしかった」という意見が少なからずあった。

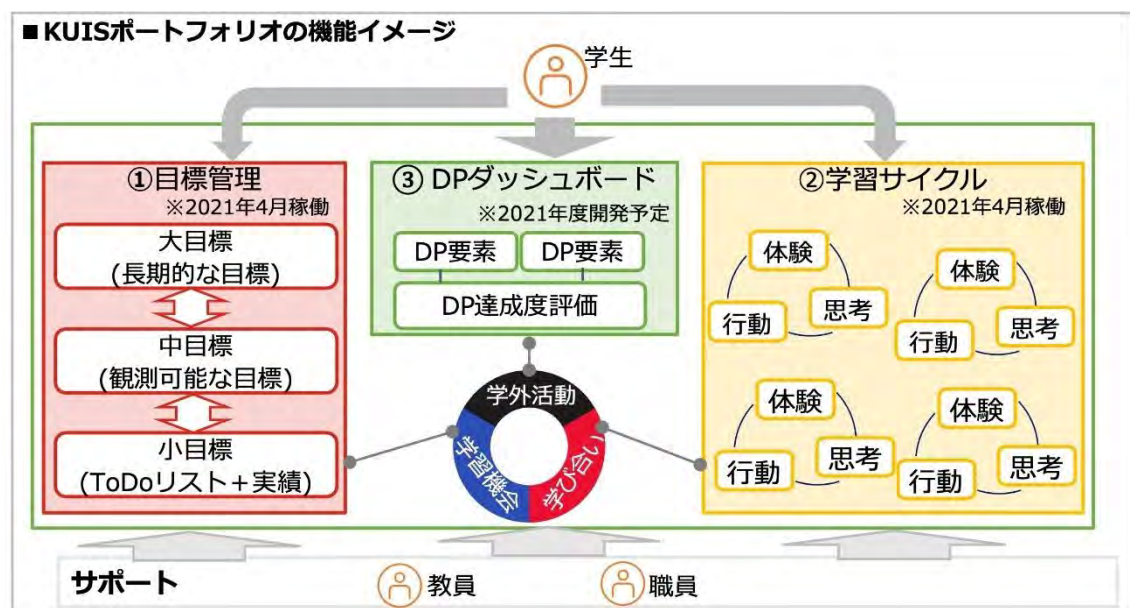
⑨ 教育成果の可視化

教育成果の可視化の実現のため①目標管理、②学習サイクル、③DPダッシュボードの機能を持つ「KUISポートフォリオ」を構築し、2021年4月から新生を対象に①目標管理、②学習サイクルの機能の利用を開始した。

入学直後のガイダンスでの導入説明に続き、ブリティッシュヒルズで実施されたフレッシュマンオリエンテーションキャンプ内のプログラムに於いて目標管理機能を使った目標設定を行った。ここでは、大学での在学期間を経て達成する「キャリア目標」、大学生活全体での「大目標」の設定を完了し、今後4年間を通じて「中目標」「少目標」を充実させ実践と見直しを進めていくことになる。

また、学習サイクル機能は、必修授業であるグローバルディスカバリ1、Academic Reading、English for Academic Purposeにおいて利用され、体験・思考・行動の3つからなる「学習サイクル」をKUISポートフォリオに記録していった。後期授業終了までに1,721件の学習サイクルが登録され、内容も徐々に充実したものとなっていった。

なお、2021年度内に整備予定としていた③DPダッシュボード機能は開発を完了し、今後のディプロマサプリメントへとつながる学習成果とディプロマ・ポリシーの達成度の可視化を実現する計画である。



2. 教員の組織体制について

本学部の教員組織の編成の考え方及び特色は、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

(1) 教員配置の考え方

本学部では、多様な学問領域にわたる幅広い教養とグローバルな事象を多面的に理解するための専門的知識を有する人材を育むために、各専門分野で博士号もしくはそれに準じる専門的な知識・経験を有する者を教員として採用・配置する。

また、英語を含む語学の授業では少人数のクラス編成を基本としており、このようなクラス編成が可能となるよう手厚い教員配置を行う。特に、各言語の教授法やコミュニケーション学等の修士号取得者を中心に、英語ネイティブ教員を積極的に採用、配置する。

なお、本学部の教育を実施する専任教員総数は 14 名で、教授 5 名、准教授 4 名、講師 5 名からなる。また、学位取得者は、博士号 11 名、修士号 3 名であり、78.6%が博士の学位を有している。

(2) 教員配置への配慮

本学部で開講する主要授業科目（GLA 基礎科目、専門教養科目、演習科目）には基本的に教授または准教授を配置することとしているほか、次のとおり授業科目への教員配置に配慮している。

① 英語科目

「英語科目」の中で初年次教育の一環として重要視される「English for Academic Purposes」、「Self-Directed Learning」においては、英語教育を専門とする教授又は准教授の専任教員を配置し、きめ細かい指導を行う。

② GLA 基礎科目

本学部ならではの科目区分として、本学部での学びとキャリアを学生自身が主体的に考え方向づけることを目的とした「GLA 基礎科目」のうち、特に主要な科目として位置づける「グローバル・ディスカバリー I・II」、「キャリアデザイン (GLA)」、「グローバル・キャリア」については、その重要性から学長、学部長、教授が科目を担当する。

③ 専門教養科目

2～4年次に配当される「Humanities(人間と文化)」、「Societies(社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ:地域研究と国際関係)」の3領域にわたる「専門教養科目」(24科目)のうち、13科目を教授・准教授が担当する。

④ 研究科目

本学部のリベラルアーツ教育を代表する「研究科目」は、「卒業研究」(キャップストーン・プロジェクト)(4年次)を学びの集大成として位置づけ、「研究演習」I・II・III(2～4年次)を通してその準備を進めることになるが、その教育研究指導は本学部専任の教授3名、准教授4名、講師3名の計10名体制で行う。

(3) 研究体制

本学部では、グローバル時代の教養の養成にふさわしい、「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の3分野に、人文学と社会科学の領域を専門とする専任教員を配置し研究教育を推進する。

具体的には、Humanities 分野の担当者として歴史学(1名)、哲学(1名)、日本倫理思想(1名)、宗教学(1名)の専門家を、Societies 分野の担当者として社会学(2名)、社会言語学(1

名)の専門家を、Global Studies 分野の担当者として政治学・国際政治学・国際経済学(3名)、国際法(1名)の専門家を配置する。

この3分野及び学際的な研究を行うための会議体を設け、これら領域における研究活動の促進を図るほか、「専門教育科目」及び「演習科目(講読演習)」の科目調整も行う。

また、学生の研究活動に必要な学術的な日本語基礎力の養成と、海外の大学において学修・研究を行うに足る高度な英語力の養成のために、日本語教育を専門とする専任教員(1名)と英語教育及び英語言語学を専門とする外国人専任教員(2名)を配置する。

なお、本学部の専任教員は、教授5名、准教授4名、講師5名からなる。うち、11名が博士号を、3名が修士号を取得しており、博士号取得者の割合は78.6%である。

以上の教員組織の編成の考え方及び特色に基づき、2021年度の実施状況は以下のとおりとなっている。

(1) 教員配置の状況

本学部の教育を実施する専任教員数14名(教授5名、准教授4名、講師5名)について、2021年3月に、教授1名が就任を辞退したほか、同年4月に准教授1名が教授に昇任したことにより、2021年4月からは13名(教授5名、准教授3名、講師5名)となった。就任を辞退した教授1名が担当する授業科目は、当人が兼任教員として担当するため2021年度における授業に支障は無かったが、次年度からは14名の体制で当初の計画運営できるように特任教授1名(兼任教員)を本学部へ移籍させることとした。

(2) 研究体制

Societies の分野では、社会言語学の専任講師1名が新たに加わり、同分野の研究体制の充実が図られた。

Global Studies 分野では、教授1名の就任辞退に伴い、政治学・国際政治学・国際経済学(3名)のところ2名となったが、引き続き兼担として協働することにより研究体制に影響がない。

なお、Humanities 分野では研究体制に変更がなかった。

また、学科会議としてのGLA運営委員会において、教育研究活動を促進したほか、学部の円滑な運営を図った。

(3) 年齢構成

2021年5月1日現在における専任教員の年齢構成は、60歳以上1人、50~59歳6人、40~49歳2人、30~39歳4人であり、完成年度までに定年となる教員はおらず、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。

IV. 学生支援の取組

1. 学習支援の取組について

(1) 入学前教育

2021年度入学者に係る入学前教育については、本学部独自に「Pre-Kanda Education for GLA」として、入学予定者の高校から大学へのマインドセットの転換や大学教育への移行をサポートしつつ、学習ニーズを把握しながら大学学修への準備を円滑に進めることを目的として実施された。学部での学修に必要なアカデミック英語と日本語の基礎能力の習得を目指した。

2022年度入学者については、外国語学部及び本学部を対象として「アカデミックサクセスセンターAcademic Success Center (ASC)」が実施する入学前教育に参加した。

(2) 修学支援奨学金

本学部では、就学を支援する奨学金として、次のとおり「特待生奨学金」と「成績優秀者奨学金」の2つの奨学金を設けている。

	GLA Freshman Scholarship ＜特待生奨学金＞	GLA Outstanding Scholarship ＜成績優秀者奨学金＞
目的	入学試験の成績優秀者に支給することで、優秀な学生の確保に寄与	入学後、優秀な成績をあげた学生を顕彰
対象要件	一般選抜すべての入試区分において成績上位で合格し、入学した者が対象。	2年次終了時点で成績優秀（GPA3.0以上）な学生で「特待生スカラーシップ」の対象者を除く
対象者数	15名以内	6名以内
奨学金額	最大200万円	100万円
支給時期	3年次（6月頃）	3年次（6月頃）

「特待生奨学金」は、新しい学生に大いに期待すること、また文字通りいきいきと学生生活を送り、グローバル社会に貢献できる人材に育てて欲しいという想いから創設した。3年次後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への留学費用相当額（渡航費、授業料、寮費など）を給付する。

【給付実績】

入学年度	給付実績	備考
2021	1名	
2022	8名	2024度（3年次）に給付

「成績優秀者奨学金」は、入学後2年間の成績が優秀であることを評価し、さらに今後も努力を続け、グローバル・リベラルアーツ学部においてリーダー的な存在として活躍して欲しい学生へ支給する。

【給付実績】2021年度入学者が3年次となった時点から給付

(3) GLA Communityの活動について

GLA学部の学習環境の場である「GLA Commons」の運営を目的として、新入生有志による「GLA Commons 運営 Community」が設置され、石井教授を取りまとめ役として活動を開始した。意見交換するなかで、「GLA学部や Commonsのことを、他の人たちにもっと理解してほしい!」、「やってみたいこと、試してみたいことを実現する受け皿がほしい!」のような「GLA Commons」の運営を超えた内容となったため、2021年5月に「GLA Community」として活動を開始した。

主な活動内容として、「GLA Commons」内への「Englishスペース」の設置、教職員の協力による「図書スペース」の設置などの活動を進めた。

第1回 GLA Community 全体会

GLA Communityの コンセプトについて

第1回 GLA Community 全体会
5th Nov. 2021 石井雅章

これまでの意見交換をふまえて

- GLA学部やCommonsのことを、他の人たちにもっと理解してほしい!
 - 外国語学部の学生とも交流したい
 - GLA学部での「学び」のコンセプトを共有したい
 - CommonsやStudioの使い方を明確にしたい
 - 後輩たちが入ってくる体制を整えたい
- やってみたいこと、試してみたいことを実現する受け皿がほしい!
 - 学外の人たちと連携した活動をしてみたい
 - 大学の施設や備品を使って活動したい
 - 活動に必要なお金やモノはどのようにすればいい?

GLA Communityの考え方（暫定）

- GLA学部に関わる人たちが自分たちでつくるコミュニティ
 - 学生・職員・教員がフラットに意見交換をする
 - GLA学部に関する情報を外部に発信する
 - GLA学部やCommonsのコンセプトを具現化する
 - CommonsやStudioの使い方やマナーを考える
 - GLA学部の名前を出して活動するためのプラットフォーム
 - 学外の人たちと連携する際の窓口
 - GLA学部の文化をつくり、継承するための人のつながり

GLA Commons / GLA Studioの利用

- GLA学部の「学び」のコンセプトに合う利用方法・マナーを考える
 - 学生同士・多様な人々がコミュニケーションを取りながら学ぶ
(会話を禁止するような学習空間ではない)
 - 授業をおこなう教室でもあり、授業以外の学習空間でもある
(授業進行時には、授業への配慮は不可欠)
 - フレキシブルで自由な学習空間である
(但し、広い意味での「学び」のためのコモンズ)
 - 外国語学部の学生も利用できる
(上記の考え方・コンセプトを理解してもらう工夫が必要)

English スペースの掲示



「GLA Commons」 図書スペース図書一覧

1. 「ジョジョの奇妙な冒険」で英語を学ぶ、2. 預言者、3. 夢を叶えるための勉強法、4. 火花、5. SDGs(持続可能な開発目標)、6. SDGs 入門、7. The conquest of happiness、8. An Introduction to Sustainable Development Goals、9. Happier、10. even happier、11. make it stick、12. fuzzy techie、13. The remains of the day、14. giver、15. college thinking、16. 外国人と働いて結果を出す人の条件、17. 歴史とは何か、18. OHANA、19. 古典ギリシャ語のしくみ、20. 〈ヤンチャな子ら〉のエスノグラフィー、21. フィンランドの教育はなぜ世界1なのか、22. 日本語と外国語、23. 私は自分のパイを求めただけであって人類を救いにきたわけじゃない、24. 男も女もみんなフェミニストでなきゃ、25. 紛争解決ってなんだろう、26. 人生を変える単純なスキル、27. 絶望の林業、28. 開業ビジネスの経営学、29. スローシティ 世界の均質化と戦うイタリアの小さな街、30. メディア・リテラシー 世界の現場から、31. エビと日本人、32. 市民からの環境アセスメント、33. 生物と無生物のあいだ、34. グラミン銀行を知っていますか、35. フィールドワーク 書を持って街へ出かけよう、36. eco-design handbook、37. 百年の愚行、38. SDGs の基礎、39. 地球全体を幸福にする経済学 過密化する世界とグローバルゴール、40. SDGs ACTION!3 雑誌、41. Sustainable development Goals 雑誌、42. アイヌ語トランプ、43. ツシマヤマネコって知ってる?、44. 日本の野草・雑草、45. サラワクの先住民、46. ブリティッシュヒルズの生き物たち、47. まるごと日本の生き物、48. ボスニア・ヘルツェゴヴィナを知るための60章、49. 東南アジアを知るための50章、50. クロアチアを知るための60章、51. スロヴェニアを知るための60章、52. バルカンを知るための60章【第2版】、53. セルビアを知るための60章、54. リトアニアを知るための60章

2. キャリア支援の取組について

(1) キャリア教育

本学部における教育課程内の取組として、以下2つの授業科目、「キャリアデザイン (GLA)」(1年次後期)と、「グローバル・キャリア」(3年次前期)を必修科目として開設している。

① 「キャリアデザイン (GLA)」(1年次後期必修)

本科目は、外部環境(国際政治、経済、社会、技術革新)や労働環境(新卒・転職・起業)を理解したうえで、大学進学後の進路(ゴール)とその道筋(パス)を考えていくための授業である。グローバルな舞台でグローバル・リベラルアーツ学部での学びを活かすにはどのような仕事があるのか。多国籍の人々が集まる組織ではどのような英語力が求められるのか。外国人と一緒に仕事をするために必要なことは何

か。仕事と家庭・子育てをどう両立させるのか。おカネとどう向き合えばいいのか。講義やグループディスカッションを通して「人生 100 年時代」を見据えた仕事と人生について考えるとともに、グローバル人材としての資質も身に付けていく。外国人と英語で仕事をするための準備講座という性格上、授業は英語と日本語を併用する。

② 「グローバル・キャリア」(3年次前期必修)

本科目では、グローバル化する社会で自分のキャリアを確立し、世界にインパクトを与えているプロフェッショナルたちの事例から、自己流のキャリアを確立するための思考や態度を、講義やグループディスカッションを通じて学んでいく。また、現在の自分と彼等プロフェッショナルとの比較を通じて、自己を客観視する力を身に付けるとともに、自身が描く卒業後のグローバル・キャリア像に対する課題を抽出し、アクションプランを立てることで、3年次後期の長期海外留学での実践に繋げていく。講義は英語と日本語を併用する。

(2) キャリア形成支援

本学部において養成する人材像は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に次のとおり定めている。

- (1) 多様な学問領域にわたる幅広い教養
- (2) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- (3) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- (4) 論理的かつ批判的な思考力
- (5) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (6) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

これらの能力を身につけ、現代社会が直面する諸問題を平和的に解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材を育成する事を目的としている。

本学部におけるキャリア形成支援について、「設置の趣旨等を記載した書類」に「(2) 教育課程外の取組」として次のとおり記載している。

この養成する人材像に基づき、①社会貢献に力を入れて取り組む企業、②国家公務員(外務省など)・非営利団体(JICAや国際交流基金など)及び③国際公務員(国連事務局、国連開発計画など)の3つのキャリア(進路)に対し、効果的に学生を輩出すべく、本学部、キャリア教育センター、そしてキャリア教育委員会の3組織からなる支援体制を構築する【資料16】。

また、「動機付け」、「選択」、「専念」からなる3つのキャリア形成フェーズを設定し、各フェーズにおいて独自のキャリア支援を促すことで、さらに効果的なキャリア支援が可能になるものと考えている【資料17】。

- ① 第1フェーズ:「動機付け」(入学前から1年次まで)

キャリア・アドバイザーやメンターとの接触を通じ、早期から学生に3つのキャリア領域を意識づける段階である。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア形成への意識付けを目的とした「入学前スタートアップセミナー」及び「入学時オリエンテーションキャンプ」(全員参加)
- ・キャリアを見据えた4年間の学修・学生生活をサポートする「担任制度」の導入
- ・社会起業家やCSV (Creating Shared Value: 共通価値の創造) 企業、あるいはJICAや政府機関などによる「キャリア講座」、「キャリアセミナー」の実施(全員参加)

② 第2フェーズ:「選択」(2年次)

卒業後のキャリアを具体的に選択する段階。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア領域で活躍している現役社会人などによる「社会人ゼミ」の実施・3つのキャリア領域における「インターンシップ」などの実践機会の提供。

③ 第3フェーズ:「専念」(3年次から4年次)

卒業後のキャリア形成に向けて必要な資質・スキルの取得に集中的に取り組む段階(特に長期留学帰国後の3年次2月~3月の期間を利用する予定)。具体的な取組は以下のとおり。

- ・履修モデルを参考とした科目履修の推奨
- ・スキルアップ・キャリア対策講座(「PCスキルアップ講座」、「公務員対策講座」、「在外公館派遣員勉強会」、「大学院進学セミナー」など)の実施

以上のキャリア形成支援計画に基づき、2021年度に計画又は実施した内容は次のとおり。

(1) 第1フェーズ

ここまでの進捗状況は、概ね順調に進展しているといえる。

第1フェーズでは、早期から学生が3つのキャリア領域を意識しながら、将来、学部での学びを活かして活躍できる進路目標を1年生の終わりまでに自ら定められるようになるために必要な情報を与えていくことを到達目標として定め、学生にキャリアに対する動機付けを芽生えさせる取り組みを行っている。

入学前スタートアップセミナー

当初は入学予定者を対象にした入学前スタートアップセミナーの開催を検討していたが、2020年度の年報にて記載したとおり、学生の入学状況等に鑑み、当初の計画を見直すこととなった。2021年度以降、入学前スタートアップセミナーについては実施を見送り、入学後に全ての学生に対して、一斉にキャリアに対する動機付けを図る機会を提供することとした。

入学時オリエンテーションキャンプ

学生が想定している進路のイメージを把握する目的で、入学時オリエンテーションキャンプにおいて、「キャリアプランアンケート」を実施した。

また、オリエンテーションキャンプではキャリアガイダンスの時間を設けて、キャリア教育センター長 柴田真一特任教授から、「人生 100 年時代」にどのようにキャリアをデザインしていく必要があるのかを主題に、学部で目指すべき3つのキャリア領域を紹介しながら、グローバル社会を取り巻く環境やその中で求められる能力について説明を行った。

担任制度の導入

学生の学修・学生生活をサポートすることを目的に本学部の教職員で構成されるアドバイジングチームにキャリア教育センターの職員 2 名がメンバーとして加わり、常時、学生の進路選択での不安を取り除ける体制を整えている。

3つのキャリア領域を想定した講座・セミナーの実施

学生が早い時期から3つのキャリア領域について考える機会を提供することを目的に各種講座・セミナーを開催した。

2021 年度に開催した講座は以下のとおりである。

【2021 年度開催講座・セミナー】

5 月 18 日 (火)	Teach For Japan フェローシップ・プログラム説明会
6 月 2 日 (水)	公務員ガイダンス
6 月 14 日 (月)	国際大学大学院説明会
6 月 15 日 (火)	ボーダレス・ジャパン社会起業家セミナー
7 月 12 日 (月)	Teach For Japan 会社説明会&サマーインターンシップ
7 月 16 日 (金)	警察官・消防官ガイダンス
10 月 27 日 (水)	国連・国際機関で働く！セミナー
11 月 20 日 (土)	SPI 対策講座 27 日・12 月 4 日・11 日・18 日 (全 5 回・土曜日)
11 月 20 日 (土)	公務員業務説明会「特別区」
11 月 22 日 (月)	国際大学大学院説明会
11 月 27 日 (土)	公務員業務説明会「国家公務員・外務省」
12 月 4 日 (土)	公務員業務説明会「元法務省職員による講演会」
12 月 11 日 (土)	公務員業務説明会「防衛相専門職員」
2022 年 3 月 7 日 (月)	公務員業務説明会「防衛相専門職員」
3 月 12 日 (土)	公務員試験入門講座

(2) 第2フェーズ

ここまでの進捗状況は、概ね順調に進展しているといえる。

第2フェーズでは、学生が卒業後のキャリアを具体的に選択し、目標進路に向けて残り2年間の学生生活の行動計画を描くことを到達目標として定めている。

社会人ゼミの実施

3つのキャリア領域への進路選択に繋がるよう、当初計画していた「社会人ゼミ」から「GLA キャリア・メンター制度（以下「メンター制度」という。）」に支援内容を変更し、2年次からの開始を目指して、制度の整備に取り組んだ。

メンター制度では、社会の最前線で仕事に向き合う社会人を「GLA キャリア・メンター」として迎え、学生は月1回のGLA キャリア・メンターとの面談でのアドバイスをもとに具体的な進路目標を定め、3年次以降の学生生活の過ごし方を明確にすることを目標とする。

2021年度内に3つのキャリア領域で活躍する5名の社会人をGLA キャリア・メンターとして招聘し、業務委託契約の締結を行った。

2022年度から2年次生に対して、メンター制度をとおした支援を開始する予定である。

3つのキャリア領域における「インターンシップ」の提供

2020年1月より続く、新型コロナウイルス感染症の感染拡大・防止に伴い、本学が主催する2021年度のインターンシップは未実施となった。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら検討を行っていく。

V. 管理運営の取組

1. 情報公表の取組について

(1) 情報公開

本学部における情報の公表について、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学は、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172の2第3項の規定に基づき、教育研究に関わる公的な機関として社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育研究活動の質の向上を図り、成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することであることを認識していることから、積極的にその成果等を公表している。

情報公開の方法は、主として学内外からのアクセス及び最新情報の更新が容易なホームページ上での公表を基本とし、その他対象者に応じて紙媒体等で情報を公表している。

(情報公表一覧) <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

なお、ホームページは各ステークホルダー（在学生、受験生、卒業生、保護者、一般・企業の採用担当者、一般市民）に対してコンテンツが分類されており、それぞれのステークホルダーが欲しい情報が容易に参照できる工夫がなされている。本学部においても各々のステークホルダーが求める情報とともに、本学部の教育研究活動にかかる公表事項をホームページ上に掲載することで、適切な情報発信に努める。

以上の情報の公表計画に基づき、本学 Web 上で情報を公開している。

上記以外の 2021 年度における公開状況（学生の声やお知らせなど）は次のとおり。

- ・ GLA 学部一期生インタビューを公開 2021.7
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/153122/>
- ・ 【GLA 学部一般選抜】併願する場合の入学検定料割引制度を導入します 2021.8
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/161118/>
- ・ 【GLA 学部奨学金制度拡充のお知らせ】ニューヨーク州立大学への留学費用を給付！2021.8
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/160997/>
- ・ 「海外スタディ・ツアー2.0」学生インタビュー 2021.9
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/gla/movies/>
- ・ グローバル・リベラルアーツ学部年報（2020年度） 2021.10
https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2020/05/gla_gakubunenpou_2020.pdf
- ・ グローバル・リベラルアーツ（GLA）学部の受験をお考えの皆さんへ 2021.12
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/166408/>

- ・グローバル・リベラルアーツ（GLA）学部の授業潜入レポート！ 2022.1
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/184254/>
- ・いしずゑ会取材企画「GLA 学部 海外スタディ・ツアー2.0」記事 2022.2
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/186119/>
- ・現地からお届け！グローバル・リベラルアーツ学部「海外スタディ・ツアー」リトアニア研修 2022.2
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/blog/tag/gla/>
- ・授業紹介 Part1 人文・社会科学を英語で学び、アカデミックな英語力を養う 2022.3
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/192741/>
- ・授業紹介 Part2 平和への Pitch！GLA 学部一期生の「平和の定義」をつくる 2022.3
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/192481/>

（2）オープンキャンパス、セミナー等

本学部では、情報公開の一環として、受験生・高校生向けに大学紹介のオープンキャンパスを開催しています。オープンキャンパスは「オンライン」と「オンキャンパス」のハイフレックス型で開催しており、「オンライン説明会」では、自宅にしながら大学の概要や入試情報を知ることのでき、「キャンパス見学会」では、来校してグローバルな世界を体験できます。

日程	実施事項	内容	備考
4月17日（土）	オンライン説明会	GLA 学部概要・入試制度説明	
4月18日（日）	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会	
5月16日（日）	学部相談会		
5月22日（土）	オンライン説明会	GLA 学部概要・入試制度説明	
5月23日（日）	キャンパス見学会	来校型のキャンパス見学会	
5月27日（木）	進学相談会	水戸（27日）、水道橋（28日）	
6月13日（日）	学部相談会		
6月15日（火）	SDGs ビジョンづくりワークショップ		
6月19日（土）	オンライン説明会	GLA 学部概要・入試制度説明	
6月20日（日）	キャンパス見学会		
7月10日（土）	オンライン説明会	留学生のためのオンライン説明会 同時開催	
7月11日（日）	キャンパス見学会		
7月17日（土）	キャンパス見学会	18日（日）の両日	
7月24日（土）	キャンパス見学会	25日（日）の両日	

7月28日(水)	SDGs ビジョンづくりワークショップ	(~29日(木)まで)	平日のオンライン説明会両日開催
7月31日(土)	キャンパス見学会		
8月1日(日)	オンライン説明会	留学生のためのオンライン説明会 同日開催	
8月20日(金)	オンライン説明会		
9月11日(土)	進学相談会	福岡	
9月18日(土)	オンライン説明会	留学生のためのオンライン説明会 同日開催	
9月19日(日)	オンライン相談会		
10月16日(土)	オンライン説明会	模擬講義、質疑応答	
10月17日(日)	キャンパス見学会		
12月5日(日)	キャンパス見学会		
12月11日(土)	キャンパス見学会		
12月12日(日)	学部相談会		
12月18日(土)	キャンパス見学会	19日の両日	
3月26日(土)	キャンパス見学会		
3月28日(月)	キャンパス見学会	29日及び30日の3日間	
3月29日(火)	集中レッスン	ELI 教員による高校生対象の授業 体験(30日の2日間)	

2. 教育内容等の改善を図るための取組について

(1) 自己点検・評価

本学における自己点検・評価の取り組みについて、「設置の趣旨等を記載した書類」として次のとおり記載している。

(1) 実施方法など

本学では、学則第1条の2に「本学の教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動の状況並びに研究について、自ら点検及び評価を行う」と定めている。2012年以降は、同点検・評価を通して明らかになった改善点を中期経営計画に落とし込み、PDCAサイクルにより、改善・改革に取り組んでいる。

自己点検・評価項目は、「神田外語大学質保証・質向上に関する規則」第5条に次のとおり定めている。

- ・使命、目的及び教育目的
- ・キャリア支援

- ・教育課程
- ・学生支援
- ・学生の受入れ
- ・施設・設備及び環境
- ・教育研究組織及び教職員
- ・管理運営
- ・内部質保証
- ・前各号に掲げるもののほか、質保証・質向上委員会が適当と判断する重要事項

(2) 実施体制

学内に、自己点検・評価の実施並びにその結果の活用及び公表に関する業務を統轄する質保証・質向上委員会を設置している。教職員一体となった全学的な取組を担保するため、同委員会の構成員は、副学長、学部長、研究科長、附属図書館長、各学科の主任、教養教育運営部会長、各分野長、教務委員長、事務局長、大学改革室長及び学長が指名した者となっている【資料12】。

(3) 第三者評価

本学は、2005年度及び2012年度に引き続き、2019年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による第3回目の認証評価（第三者評価）を受審し、同機構が定める大学評価基準に「適合」しているとの評価を得ている。実施にあたっては、自己点検・評価同様に、質保証・質向上委員会が行い、その事務は総務部で行うこととしている。

以上の自己点検・評価の取組に基づき、本学部では、7年に一度実施する外国語学部を含めた全学の自己点検及び第三者評価（実施は質保証・質向上委員会）の取組とは別に、設置前年度（2020年度）から完成年度（2025年度）までの5年度にわたり、以下の自己点検・評価項目に基づき、各年で実施することとした。

2021年度自己点検・評価は2021年4月から8月にかけて大学改革室及びGLA学部運営委員会が行ない、本報告書を大学ホームページで公開することとした。

- I. 理念・目的
- II. 学生受入れ（入学者選抜）の取組
- III. 教育課程編成の取組
- IV. 学生支援の取組
- V. 管理運営の取組

(2) FD委員会

本学における教育内容等の改善を図るための組織的な取組みについて、「設置の趣旨等を記載した書類」として次のとおり記載している。

本学では、「神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則」に基づき、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」を設置し、PD(Professional Development)活動の組織的な実施に努めている（本学では、FDをPDと称す）【資料13】。同委員会は、副学長3人（うち1人が委員長）、各学科主任、各研究分野長（言語研究分野・総合文化研究分野・コミュニケーション研究分野・地域国際研究分野）、教務学監、大学院研究科長、ELIディレクター、SALCディレクター、PDワーキンググループメンバー6人（ELI所属教員を含む）、関連部

署の職員で構成されている。2020年度PD委員会は、最低4回の開催を予定しており、PDワーキンググループは定期的にメンバーを招集し、PDの企画・調整を行う予定である【資料14】。本学部のPD活動は、学部長（兼副学長）が中心となり、全学的な取組としてのPD及び本学部独自のPDを推進する計画である。特に本学部が目指すアクティブ・ラーニングによる授業、及び感染症拡大の影響によるオンラインでの効果的な授業手法について、今年度から専任・兼任教員を対象にPDを行う計画である。またこれまで外国語学部（全学）を対象とした以下のPD活動についても、PD委員会が運営のもと、本学部でも実施する。

(1) 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

「教務委員会」が中心となり、各学期末に、基本的に全開講科目を対象として、学生に「授業評価アンケート」を実施している（教育の質保証への学生の参画）。同結果は各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。

(2) 教職員による授業参観

再任審査対象（テニュアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。当該授業科目を管理する教学組織（学科、専攻、「研究分野会議」、「教養教育運営部会」等）の教員が、複数名で授業参観を実施し、その結果をフィードバックして授業改善に役立てている。また、2012年度からは職員による授業参観も行っており、終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザーションレポートを提出している。

(3) PD講演会

言語教育研究所が主催する「Bag Lunch Seminar」は、PD講演会の一環として行われており、開学以来、延べ200回近い開催実績がある。このセミナーの発表者は学内の教員が中心であるが、ELIコンサルタントを含む外部講師による発表も行われ、研究成果が共有されており、本学部の根幹を担う高度な言語教育を提供するうえで、教員同士の学び合いの場となっている。このほか、きめ細やかな学生支援に欠かせないメンタルヘルスに関わる基礎知識やカウンセリング手法を学ぶ研修会（メディカルセンター主催）や、研究資金を獲得するうえで欠かせない研究力の向上に資するセミナー（学術・研究支援部主催）などを実施している。

(4) 奉職時（入職時）研修会

本学教育職員としてのキャリアを円滑にスタートできるように、専任の新任教員（参加義務）及び非常勤教員（任意）を対象に、理事長・学長の講話、テニュアになった教員による対談及び事務局説明を行う。また、1月下旬を目途に、着任後に生じた課題等についてテニュア教員と対話ができるフォローアップ研修会を実施する予定である。

以上の教育内容等の改善を図るための組織的な取組みに基づき、2021年度におけるFD委員会の取組は以下のとおりである。

① 実施体制

a. 委員会の設置状況

全学委員会として、神田外語大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置。

b. 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は、副学長、研究科長、学部長、各学科長及び各専攻長、教務委員長、教養教育運営部

<p>会長、教育研究に関わる学内附属機関所属教員のうちから学長が指名した者、事務局長及び学長室ゼネラルマネージャー、その他学長が指名した教職員により構成され、年5回開催。</p> <p>c. 委員会の審議事項等 委員会の審議事項は、FDに関する研究・企画運営、情報収集及び教育機関との連携、活動の評価及び報告に関することとしている。</p>
<p>② 実施状況</p> <p>a. 実施内容 ア 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善 イ 教職員による授業参観・授業見学 ウ FD 講演会 エ 入職時研修会</p> <p>b. 実施方法 ア ③に記載 イ 再任審査対象（テニュアトラック）の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。また授業見学として、教職員が他の教員の授業を見学し、お互いから学び合うFD・SDも実施。 ウ 授業のグッドプラクティス（事例紹介）や授業実践に係るセミナーが中心となる。 エ 専任の新任教員（参加義務）を対象としている。</p> <p>c. 開催状況（教員の参加状況含む） ア ③に記載 イ 授業参観については、対象者31名を実施。授業見学については、授業公開教員数17名、公開科目数32科目、見学者数は延べ180名。 ウ 授業のグッドプラクティスを共有するFDセミナーを2022年1月26日に実施。118名の教職員が参加。また、授業実践事例やFD関連情報を共有するためのサイト（Google Classroom）を設けており、129名の教職員が登録している。 エ 13名の新任専任教員に対し、理事長・学長の講話、テニュアになった教員による対談及び事務局説明、学内の施設見学を実施。また、事務局からの案内事項をオンデマンドコンテンツとして事前に共有。それらは既存の教員（専任・非常勤）にも公開されている。</p> <p>d. 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ア アンケート結果を各担当教員にフィードバックすることにより、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。 イ 教員による授業参観は、その結果をフィードバックし、対象教員はリフレクションシートを提出することで授業改善に役立っているほか、教職員による授業見学終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザーベーションレポートを提出している。 ウ セミナーの発表者は学内の教員が中心であるが、ELIコンサルタントを含む外部講師による発表も行われ、研究成果が共有されている。また、本学部の根幹を担う高度な言語教育を提供するうえで、教員同士の学び合いの場となっている。 エ 本学教育職員としてのキャリアの円滑なスタートに資している。</p>
<p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a. 実施の有無及び実施時期 FD委員会の協力の下、「教務委員会」が中心となり、各学期末に全開講科目を対象として、「授業評価アンケート」を実施。</p> <p>b. 教員や学生への公開状況、方法等 アンケート結果は、大学ホームページを通じて学生・一般に公開を行っている。</p>

また、各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証している。
加えて、各担当教員はアンケート結果に対するフィードバックを行っており、
その内容は学生に共有されている。

3. 管理・運営体制について

本学部の管理・運営体制については、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載している。

本学部においては、上記の各種委員会のうち、教学の重要事項を審議する学務審議会の構成員となるが、学部の特異性と学生数を踏まえ、外国語学部と共通の全学委員会（例えば、「学生委員会」、「キャリア教育委員会」、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」、「入学試験委員会」等）と学部独自で運営するもの（例えば、「教務委員会」、「国際交流委員会」等）とで構成する計画である。

2021年4月GLA学部設置に伴い、新たにグローバル・リベラルアーツ学部教授会（以下「教授会」という。）及びグローバル・リベラルアーツ学部運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置き、原則毎月第1週水曜日に開催される運営委員会において学部の管理・運営に関わる事項を審議し、当該事項は、入試、教務、教養教育など外国語学部と共通の委員会に報告のうえ、外国語学部との合同教授会において審議又は報告した。

神田外語大学学部教授会規則（抜粋）

第1条 この規則は、神田外語大学学則第39条第2項の規定に基づき、外国語学部及びグローバル・リベラルアーツ学部の教授会（以下「学部教授会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

第2条 第2条 学部教授会は、各学部の専任教授、准教授及び講師をもって組織する。

2 前項の講師は、満56歳に達する年度以降については、学部教授会の構成員とはならない。

（合同開催）

第5条 学部教授会は両学部による合同で開催することができる。

2 前項により開催する場合に必要な事項は別に定める。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会規則（抜粋）

（設置）

第1条 グローバル・リベラルアーツ学部（以下「本学部」という。）に、本学部教授会が必要と定めるものを審議し、学部の円滑な運営を図るため、グローバル・リベラルアーツ学部運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 本学部長
- (2) グローバル・リベラルアーツ学科長
- (3) 本学部に所属する専任教員
- (4) 教務部ゼネラルマネージャー
- (5) 大学改革室長
- (6) 本学部長が指名した教職員

(審議事項)

第5条 委員会は、本学部の次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程、授業その他の教務に関する事
- (2) 学力試験の実施・実施方法その他の入学者選抜に関する事
- (3) 学生の海外研修・留学その他の国際交流に関する事
- (4) 学生の厚生、課外活動その他の学生生活一般に関する事
- (5) 学生のキャリア教育、卒業相談その他の卒業後の進路に関する事
- (6) その他本学部教授会が必要と定める事

(1) 運営委員会における審議・報告事項

開催日	回数	報告・審議事項
2021年4月9日(金)	第1回	1. GLA 学部授業の開始について 2. GLA Commons の運用ルールについて
2021年5月12日(水)	第2回	1. 報告事項 (1) 教務委員 (2) キャリア委員会 (3) 図書館運営委員会 (4) 2022年度入試日程と担当について (5) GLA Commons 運営 Community (仮称) (6) GLA 学生の休学相談等について (7) Open Campus での模擬授業、学部相談 (8) GLA classes so far (9) 事務局 ① 在外公館派遣員試験の GLA 学生の結果 ② GLA 学部の休学について (発表者調整中) ③ BH での Study Tour 2.0 について 2. 審議事項 (1) GLA 学部・学科のアドバイジング・チーム(案)について (2) 授業参観について

2021年6月2日(水)	第3回	<p>Ⅰ. 報告事項</p> <p>(1) 委員会報告 「GLA 学部 2022 年度 履修希望選択外国語アンケート結果」他について</p> <p>(2) その他</p> <p>①GLA イブニングセミナー【ゼロに戻ったエチオピア by UNFPA】開催について</p> <p>②GLA の初年次アカデミック・アドバイザーについて</p> <p>③ GPS-Academic Test の実施について (Academic Success Center より)</p> <p>④リベラルアーツ学院 Institute of Liberal Arts より 2021 年度前期生募集について</p> <p>⑤事務局から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外 ST@BH の実施に向けた引率と健康チェック等のお願い、報告ほか ・アフターケアの提出について、報告ほか
2021年8月4日(水)	第4回	<p>Ⅰ. 報告事項</p> <p>(1) GLA 学部特別奨学金給付規程の改定について</p> <p>(2) 海外スタディ・ツアー学生アンケート結果について</p> <p>(3) GLA 学部生・理事長意見交換会の開催報告</p> <p>(4) GLA 学部自己点検・評価報告書について</p> <p>(5) GLA 学部後期ガイダンス (9月15日開催) について</p> <p>(6) その他</p> <p>①「GPS-Academic Test」の実施・結果について</p> <p>②学生の退学・休学について</p> <p>③TOEFL 夏期講座 (オンライン)</p> <p>Ⅱ. 審議事項</p> <p>(1) 2021 年度内における現地ツアー実施について</p> <p>(2) その他</p> <p>①2022 年度学年暦について</p> <p>②2022 年度以降の GLA 学部時間割について</p> <p>③GLA 学部カリキュラム表の英訳について</p>
2021年9月15日(水)	第5回	<p>Ⅰ. 報告事項</p> <p>(1) 後期 GLA 学生オリエンテーション</p>

		<p>(2) GLA 入門Ⅱについて</p> <p>(3) 教務 WG (研究演習、SUNY 科目、等) について</p> <p>(4) KUIS Portfolio の update</p> <p>(5) オンライン説明会の模擬講義 10 月 16 日(土)</p> <p>(6) 総合型<前期>入試 10 月 2 日 (土) について</p> <p>(7) その他</p> <p>①GLA Commons について</p> <p>②GLA Commons 運営 Community について</p> <p>2. 審議事項</p> <p>(1) 次年度海外 ST 実施に向けたワクチン接種及び Q&A について</p>
2021 年 10 月 6 日(水)	第 6 回	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) GLA 学部の休退学状況について</p> <p>(2) GLA の授業をご担当の教員向けワークショップの開催について</p> <p>(3) 10 月 13 日 (水) の GPS テスト報告会について</p> <p>(4) その他</p> <p>①「GLA Community」、SDG s クリエイティブアイデアコンテストについて</p> <p>②図書館データベースについて</p> <p>③2022 年度海外スタディ・ツアーの見直し、KUIS Portfolio の活用、GLA のシラバスの標準化</p> <p>④高等学校向け GLA の広報について</p> <p>2. 審議事項</p> <p>(1) 10 月 2 日(土)入試の合否判定について</p>
2021 年 11 月 3 日(水)	第 7 回	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 「第 1 回 GLA 教員向けワークショップ」について</p> <p>(2) 「研究演習 I」と「ゼミ説明会」について</p> <p>(3) [確認事項] 2022 年度時間割 (担当科目)</p> <p>(4) 「2022 年度シラバス作成について」</p> <p>(5) EAP の学生面談や KUIS Portfolio の活用のお 願い</p> <p>(6) 入試面接担当について</p> <p>(7) 広報関連の活動について</p>

		<p>(8) 「大学院進学相談会」について</p> <p>(9) 2022年度入学予定者向けの「入学前教育」について</p> <p>(10) 2022年度GLA便覧修正スケジュールについて</p> <p>(11) GLA学部の研究支援体制について</p> <p>(12) その他</p> <p>①2021年度の海外スタディ・ツアーについて</p> <p>②GLA Community全体会について</p> <p>2. 審議事項：</p> <p>(1) SUNY留学の単位認定方法について</p>
2021年12月1日(水)	第8回	<p>1. 報告事項：</p> <p>(1) 2022年度時間割状況について</p> <p>(2) 2022年度シラバス作成状況について</p> <p>(3) 大学院進学相談会の報告について</p> <p>(4) スタディ・ツアーについて</p> <p>2. 審議事項</p> <p>(1) 11月入試の合否判定について</p> <p>(2) SUNY留学の単位認定方法と便覧記載事項について</p>
2022年1月12日(水)	第9回	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) スタディ・ツアーについて</p> <p>(2) GLA年報2020について</p> <p>(3) 2021年度図書購入リストについて</p> <p>(4) 入学式の新入生歓迎のスピーチについて</p> <p>(5) 1月8日(土)開催、ASC主催スタートアップセミナーについて</p> <p>(6) GLA学部の入学前教育について</p> <p>2. 審議事項：</p> <p>(1) GLA学部アドミッション・ポリシー改訂案について</p> <p>(2) 2022年度新入生ガイダンスにおける先輩学生枠のご相談について</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 2021年度内人事案件審議</p> <p>(2) 研究演習Iの学生事前登録について</p> <p>(3) カリキュラム検討(検証)部会について</p>

		<p>(4) 来年度の委員会所属について</p> <p>(5) 3月の学生オリエンテーション等のスケジュールについて</p> <p>(6) GLA コミュニティからの報告</p> <p>(7) Anews (AI ニュースサービス) の利用について</p> <p>(8) オリエンテーション・ガイダンス、教室について、メンターについて、図書費について</p>
2022年2月10日(木)	第10回	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) スタディ・ツアーについて</p> <p>(2) GLA 学部の入学前教育について</p> <p>(3) GLA 学部 研究演習 I 希望アンケート結果について</p> <p>(4) 2022年度 GLA 運営委員会日程について</p> <p>(5) 2022年度前期「人間と文学」担当者(加藤先生)について</p> <p>(6) その他</p> <p>①2022年度【修正版2】時間割について</p> <p>②2022年度「グローバル・ディスカバリー」</p> <p>③来年度の「人事計画」について</p> <p>④GLA Community から</p> <p>⑤Anews の使い方について</p> <p>2. 審議事項</p> <p>(1) 2月入試の合否判定について</p>
2022年3月4日(金)	第11回	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 2022年度 GLA 学部入学状況と授業編成の対策について</p> <p>(2) スタディ・ツアーについて</p> <p>(3) GLA 学部の入学前教育について</p> <p>(4) 2022年度 GLA 学部のオープンキャンパスなどについて</p> <p>(5) 学生委員会：フレッシュマン・オリエンテーションキャンプ(4月7日・8日)先生方の参加について</p> <p>(6) その他</p> <p>①入退館履歴システムの試行について</p> <p>②Anews 利用について</p>

		③GLA コミュニティからの報告 2. 審議事項 (1) 一般選抜(前期) 振替試験受験者の合否判定について
--	--	--

(2) 教授会における審議・報告事項

開催日	回数	報告・審議事項
2021年6月30日(火)	第1回	報告事項 1) 委員会報告 ①教務委員会 2021年度前期授業アンケートフィードバック 2) 事務局報告 ①2021年度会議スケジュール ②会議体の情報伝達方法、資料の閲覧について ③「令和4年度科研費」および「2022年度神田外語大学研究助成」について ④第10回全国学生英語プレゼンテーションコンテストについて 審議事項 外国語学部案件
2021年7月28日(水)	第2回	報告事項 1) 名誉教授の称号授与について 2) 委員会報告 ①入学試験委員会 2022年度入試日程について ②研究助成委員会 2022年度神田外語大学研究助成の公募について ③キャリア教育委員会 人事案件 1) フルブライト米国人招へい講師受け入れについて(報告) 2) キャリア教育センター客員教授採用について その他外国語学部人事案件
2021年9月15日(水)	第3回	報告事項 1) 委員会報告(口頭による補足説明事項) ①教務委員会 2022年度 学年暦について 審議事項 外国語学部案件

2021年10月27日	第4回	<p>報告事項</p> <p>1) 委員会報告</p> <p>①教務委員会 2021年度前期授業アンケートフィードバック結果について</p> <p>②国際交流委員会</p> <p>2) 事務局報告</p> <p>①11月入試以降の入試日入構制限について</p> <p>②保護者会(外国語学部)</p> <p>審議事項</p> <p>1) 2022年度入試判定について(総合型選抜<前期>入試)</p> <p>2) 2021年度9月卒業者の追加について</p> <p>人事案件</p> <p>外国語学部案件</p>
2021年11月17日	第5回	<p>報告事項</p> <p>1) 委員会報告</p> <p>①国際交流委員会</p> <p>人事案件</p> <p>1) 2022年度 英米語学科 非常勤講師の任用について(2名)(口頭報告)</p> <p>2) 2022年度 アジア言語学科 中国語専攻 語学専任講師の任用について(報告)</p> <p>3) 2022年度 アジア言語学科 タイ語専攻 語学専任講師の任用について(報告)</p> <p>4)、5) 外国語学部案件</p> <p>6) 2022年度 GLA 学科 講師の准教授昇任人事について【審議・投票】</p> <p>7) 2022年度 GLA 学科 准教授の教授昇任人事について【審議・投票】</p>
2021年12月1日	第6回	<p>報告事項</p> <p>1) 委員会報告</p> <p>①大学評議会 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた項目別運用表の変更について</p> <p>②入学試験委員会 2022年度共通テストおよび一般入試試験監督委嘱について</p> <p>審議事項</p> <p>1) 2022年度入試判定について(11月入試)につ</p>

		いて 2) 2022 年度再入学試験について 3) 2022 年度授業形態について 人事案件 外国語学部案件
2021年12月22日	第7回	報告事項 1) 委員会報告 ①研究助成委員会 ②学生委員会 2) 事務局報告 ①入試募集状況について ②佐野学園の財務状況について ③2022 年 全学教員連絡会、賀詞交歓会のご案内
2022年1月26日	第8回	報告事項 1) 委員会報告 ①FD 委員会 2021 年度 FD 講演会 2) 事務局報告 ①一般入試について ②2021 年度「個人研究費」「大学研究助成」証憑書類の提出期限について ③新入生の iPad 入手の遅延について 審議事項 ① 2023 年度カリキュラム改定について 人事案件 1) 2022 年度 アジア言語学科語学専任講師の新規任用人事について（報告） 2) 2022 年度 ELI 語学専任講師の新規任用人事について（報告） 3) 2022 年度 SALC 語学専任講師の新規任用人事について（報告） 4)2022 年度 SALC 語学専任講師の ELI からの移籍人事について（報告） 5) 2022 年度 アカデミックサクセスセンター講師の准教授への昇任人事について（報告） 6) 2022 年度 自立学習教育研究所講師の特任准教授への昇任人事について（報告） 7) ~11) 外国語学部案件

		1) 2022 年度 アカデミックサクセスセンター専任講師の GLA 学部授業担当について (審議)
2022年2月10日	第9回	審議事項 1) 2022年度入学者の選考について 2) 外国語学部カリキュラム改定にあたっての基本方針の見直し 人事案件 1) 2022 年度キャリア教育センター特任教授の GLA 学部移籍について (報告) 2) 2022 年度キャリア教育センター客員教授の任用について (報告) 3) 2022 年度教育イノベーション研究センター客員講師の授業科目担当について (審議) 4) 2022 年度キャリア教育センター非常勤講師の新規任用人事について (審議)
2022年2月16日	第10回	審議事項 1) 2021 年度第 1 回卒業判定および各課程修了者について 2) 2022 年度再入学選考結果について 3) 2022 年度カリキュラム改定作業部会 (案) について 人事案件 1) 2022 年度英米語学科語学専任講師の新規任用人事について (報告) 2) 2022 年度アカデミックサクセスセンター語学専任講師の新規任用人事について
2022年3月4日	第11回	報告事項 2) 事務局報告 (口頭による補足説明事項) ①学内 Wi-Fi の認証方式の変更について 審議事項 1) 2022 年度入学者の選考について (共通テスト利用入試後期 2 科目・3 科目、一般入試後期、GLA 学部振替試験) 2) 2022 年度入学者の選考について (一般入試前期第 2 回追加合格) 3) 2021 年度第 2 回卒業判定および各課程修了者について

		<p>4) 2021 年度第 1 回進級判定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GLA 学部は進級要件単位の基準がない為、1 年生全員が進級（休学者を除く） <p>5) 2022 年度転籍試験結果について</p> <p>人事案件</p> <p>1) 2022 年度 ELI 語学専任講師の新規任用人事について（2 名追加）（報告）</p> <p>2) 2022 年度 ELI 語学専任講師の新規任用取消しについて（報告）</p> <p>3) 2022 年度教養教育非常勤講師の新規科目担当について（審議）</p> <p>4) 2022 年度教養教育非常勤講師の新規任用人事について（審議）</p> <p>5) 2022 年度アカデミックサクセスセンター非常勤講師の新規任用人事について（審議）</p>
2022 年 3 月 15 日	第 12 回	<p>報告事項</p> <p>1) 委員会報告</p> <p>①2022 年度一般選抜後期_追加合格判定 入学試験委員会</p> <p>2) 事務局報告</p> <p>①入学式、辞令交付、会議日程等について</p> <p>②2022 年度各学年ガイダンス日程</p> <p>審議事項</p> <p>1) 2021 年度第 3 回卒業判定について</p> <p>2) 2021 年度第 2 回進級判定について</p> <p>人事案件</p> <p>1) 2022 年度 ELI 語学専任講師の新規任用人事について（報告）</p> <p>2) 外国語学部案件</p>

4. 施設・設備について

本学部設置に伴う研究室・教室等の施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(2) 校舎等施設の整備計画」に次のとおり記載している。

教室の確保については、本学部新設に伴う定員増は行わないことから、2019 年度における教室数に対する曜日・時限ごとの教室使用状況により、新学部稼働後も充足すると見込んでいる【資

料6】。このことから、校舎の新築は行わず既存校舎（3号棟）の改修によって、本学部のため、60人の教室1室と30人の教室2室を確保する。また、一部使用が集中する状況にある曜日・時限については、教員の協力を得て調整を行うなど改善を図っていく。

3号棟の一部改修により、新任教員の研究室、及び共同研究室を新たに設置することで、教室のほか、学部所属の専任教員に対する研究室及びそれをサポートする事務体制も十分確保できると考えている。

また、国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とする本学は、コミュニケーション能力、問題解決力の養成にも力を入れており、2003年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された SACLA を発展させた SALC(Self-Access Learning Center)、ELI (English Learning Institute) 等の本学が先進的と自負する自立学習施設を整備し日夜充実に取り組んでいる。同時にこれらの能力育成に資するため少人数教室においても、学生用にアクティブ・ラーニングに適する可動型の机椅子の導入を進めている。

（1）教室等の整備・充実

「自ら体験し」、「問いを立て」、「自ら学び」、「仮説を立て」検証して行く、と言う生涯の学びのサイクルを実践するための学習施設として設置した「GLA Commons」では、様々な利用形態による授業や課外活動において活用された。

なお、利用にあたって次のとおり周知している。

- ペットボトルやキャップ付の飲み物等を除き、飲食禁止です。
- GLA Commons の利用時間
他の教室の使用 방법에準じますが、20:00 には完全撤収してください。
- GLA Commons の予約及び機器利用は、公認団体のみすることができます。
(一般学生、非公認団体はできません)
- 授業中の GLA Commons 内への入室について
対面授業時 : 授業を受講する学生以外は入室不可。
オンライン授業時 : 静かに利用をすることを条件に GLA 及び他学部生の入室可。
ただし、事情により、退室をお願いすることがあります。
- GLA Commons 内設置の学生用プリンターについて
授業中は使用しないでください。プリンター音により授業の妨げになります。
- Commons 内掲示板について
GLA Office で管理していますので、掲示希望の場合は申し出てください。



また、本学部の学生に向けて、「2022年度学生便覧グローバル・リベラルアーツ学部」において次のとおり案内している。

X GLA Commons について

3号館2階に、本学部における教育・学習の中心的な場所として、GLA Commons (3-250) を設置しています。オープンスペースとしても、カーテンの仕切りで区切っても使える空間で、授業だけではなく自習やグループワークなど様々な形態で活用できます。日々の空間内の区分けについては、GLA Commons 前に掲示します。利用にあたっては、GLA Commons 内共同研究室 (GLA Office) の職員の指示に従ってください。

<GLA Commons の特徴>

- ・オープンな空間の中に様々な特徴的な場所が存在し、目的に応じて活用できます。
- ・可変性の高い空間で、よりアクティブな使い方ができます。
- ・授業の場であり、学生の日常の居場所でもあります。
- ・Commons のコンセプトを理解した本学の学生・教職員であれば、誰でも使うことができます。

<GLA Commons のコンセプト>

●ACTIVE

- ・アクティブ・ラーニングにふさわしい空間
- ・従来の受動的な教育・学習ではなく、能動的に考え、行動することを促す空間
- ・新たな課題や問題に対して、よりアクティブにチャレンジしていく姿勢が身につく空間

●BORDERLESS

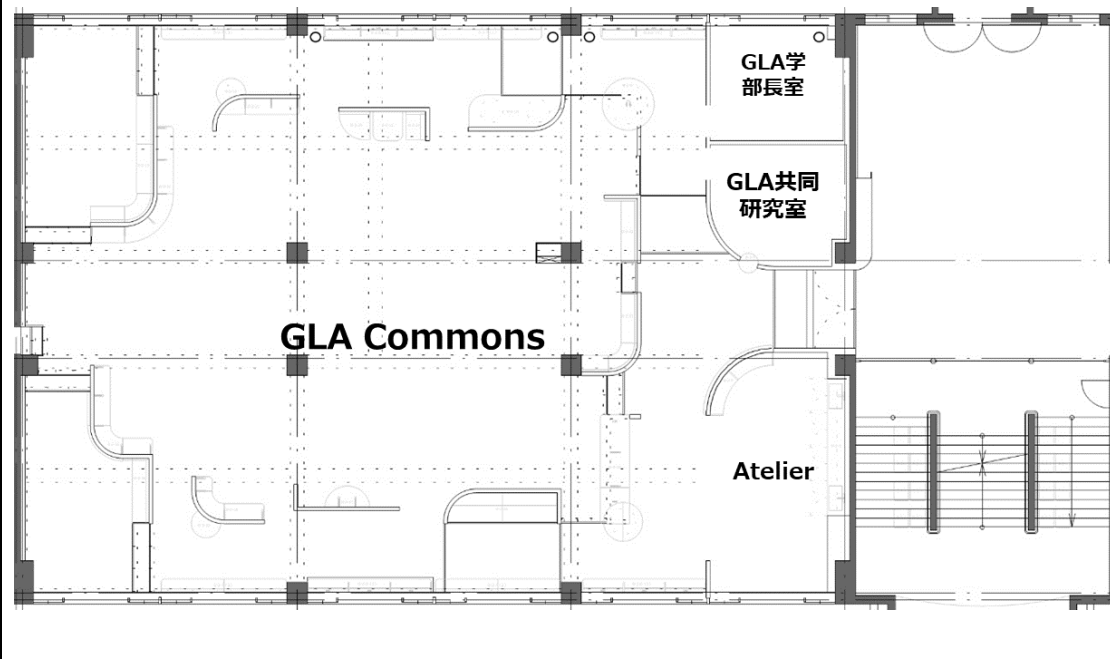
- ・教室という境界をなくし、あらゆる場所が学びの場所となる空間

- ・利用者や使い方を限定しない、開かれた空間
- ・建物やキャンパスを超え、広く世界を意識することができる空間

●CANVAS

- ・自分たちの手で作りこんでいくことができる空間
- ・持続的に使い方や活用の仕方を発見していくことができる空間
- ・そこにいる人、そこを使う人が主役になる空間

<GLA Commons>* 3号館2階西側 (KUIS ガーデン側)



(2) 設備・図書等の整備状況

本学部設置に伴う図書等の整備については、「設置の趣旨等を記載した書類」の「(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に次のとおり記載している。

なお、本学部の設置に伴い、これまでの言語学や語学教育分野を中心とした資料に加えて、新学部の学修に必要となる国際関係分野の資料の収集に重点を置きつつ一般的な教養分野についても整備をすすめる予定である。特に、データベースでは「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」、電子ジャーナルでは「Journal of Conflict Resolution」、「Journal of Peace Research」、「International Journal of Law in Context」、「Cultural Studies」などの導入を予定している。

2021年度中には、SDGsや海外諸国の文化、国際関係を中心に、延べ和書(冊子)120冊、和書(電子書籍)57タイトルを購入し、順次登録ならびに公開を行い学生や教員が利用できるようにした。

Gale in Context: Global Issue、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」の2つのデータベースについては、2021年度当初は一部の教員による利用に留まっていた。そこで、より多くの教員に周知し、授業での利用を促進するために10月6日(水)、提供元のセンゲージラーニング

グ社の講師による Zoom でのオンライン講習会を実施した。あわせて、データベースの利用方法をいつでも確認できるように、図書館にてガイダンス動画を制作しネット上に公開した。

(<https://sites.google.com/kanda.kuis.ac.jp/gale-in-context/>)

データベース	内容
Gale in Context: Global Issue	450 以上の国際問題、250 の国・地域について、地域紛争、経済格差、人権問題、環境問題、難民問題、外交問題、国際経済、価値観の衝突、サイバー犯罪など、国境を超える様々な国際問題の背景について多角的にとらえ、グローバルな理解と考察をうながす。
Gale in Context: Opposing Viewpoint	正答の存在しない 440 以上の社会問題について、賛成・反対など様々な立場からの実際の論説、レファレンス記事、画像、映像、新聞記事、雑誌記事、ラジオ報道、ウェブサイト、統計などをトピックごとにまとめたポータル形式で提供し、多角的な理解と考察をうながす。